

《資 料》

ラテンアメリカ日誌－2010年－

月 日	国名	記事
1・2	ペルー	1990年代に起きた軍特殊部隊による民間人殺害事件で訴追されていたフジモリ(Alberto Ken'ya Fujimori)元大統領に対し、同国の最高裁特別法廷は禁固25年とした一審判決を支持する決定を出した。この裁判は二審制で、同判決が確定する。
1・4	アルゼンチン	マレーシア空軍が持つ米国製F5E戦闘機のエンジンが盗まれ、アルゼンチン企業に売却されていたことが明らかになった。空軍を舞台にした汚職の可能性が高く、被害総額は計1億マレーシアリング(約27億円)にのぼるとされる。その後の調べで、戦闘機の他の部品なども盗まれていた疑いが持たれている。
1・11	メキシコ ブラジル	オランダのビール大手ハイネケンは、メキシコの飲料大手FEMSAのビール事業を買収すると発表した。買収額は38億ユーロ(約5000億円)。FEMSAもハイネケンの株式20%を取得する。ハイネケンを買収によってメキシコやブラジルなどの新興国市場での事業基盤を強化。世界規模で加速する飲料業界の再編に対応する。
1・12	ブラジル	米ゼネラル・エレクトリック(GE)はこのほど、ブラジルに研究開発拠点を開設すると発表した。同拠点としては米国やドイツ、インド、中国に次いで同社で5カ所目となる。今後、大学や企業の研究所と連携が取りやすいことを条件に、立地などを選定する。
1・12	ハイチ	マグニチュード7.0の強い地震があった。震源地は首都ポルトープランスから南西に約5キロで、震源の深さは約10キロ。AP通信によると、ポルトープランスでは病院が倒壊するなど大きな被害が出ており、死者や負傷者の発生が懸念されている。
1・12	ホンジュラス	国会は、中南米・カリブ海の左派政権諸国を中心とした地域機構「米州ボリバル同盟」(ALBA)からの脱退を賛成多数で可決した。ALBAはベネズエラやキューバなどで構成。ホンジュラスは、クーデターで追放されたセラヤ大統領主導で2008年に加盟していた。
1・13	ブラジル	バイオエタノールを発電に利用する取り組みが広がっている。すでに普及している自動車用燃料以外に用途を広げ、国内の温室効果ガス排出削減や、国外需要の開拓につなげる。資源大手のヴァーレがスウェーデンのスカニアと連携して発電機の開発を進めるほか、ペトロブラスは発電所での実証実験に着手した。
1・15	ハイチ	ナポリターノ(Janet Napolitano)米国土安全保障長官は、ハイチで大地震が発生した1月12日時点で米国内に滞在していたハイチ人に対し、今後1年半にわたり滞在を認めると発表した。地震被害により不法滞在者をハイチに強制送還しても安全が保証されないことを考慮したうえでの例外的な措置だとしている。

1・16	ハイチ	大地震後、コレラの感染が深刻化している。ハイチ保険・人口省の発表によると(14日現在)死者は1034人。日本赤十字の医療チームも現地入りするなど国際社会が支援を急いでいる。現地医療関係者からは、実態は政府の集計を大きく上回るとの見方が出ている。
1・17	チリ	バチェレ(Verónica Michelle Bachelet Jeria)大統領の任期満了に伴う大統領選挙の決選投票が実施され、中道右派のピニェラ(Miguel Juan Sebastián Piñera Echenique)候補が初当選した。右派ながら1988年のピノチェト軍事政権に対する信任投票で「ノー」を投じるなど、軍政の人権弾圧を厳しく批判してきた。「変革のために集え」をスローガンに20年間の中道左派政権に終止符を打った。
1・18	ブラジル	航空最大手TAM航空は経営再建中の地域航空会社、パンタナル航空を買収した。ブラジルでは新規航空会社の参入などで国内線の競争が激化しており、TAMは、買収で路線網を拡充するほか、中核空港であるサンパウロの国内線空港「コンゴニャス空港」の発着枠を確保する狙いがある。
1・18	チリ	ピニェラ次期大統領はチリ国営銅公社(CODELCO)について「抜本的に改革する」との考えを表明した。コデルコは世界有数の銅生産会社だが、新規鉱山の開発の遅れなどが課題になっている。
1・22	ボリビア キューバ	チェコ紙ムラダー・フロンタ・ドネスは、キューバ革命の英雄ゲバラ(Ernesto Rafael Guevara de la Serna)が、ボリビアで殺害される前年の66年、別人になりすましてチェコスロバキアのプラハ近郊に身を潜めていたと報じた。
1・25	ブラジル ハイチ	ハイチでの国連平和維持活動(PKO)、国連ハイチ安定化派遣団(MINUSTAH)に最多の要員を派遣しているブラジルは、軍と警察の要員計900人の増派を国会で承認した。必要に応じてさらに400人を追加派遣することも決めた。
1・26	グアテマラ	検察当局は、ポルティジョ(Alfonso Antonio Portillo Cabrera)元大統領を逮捕したと発表した。元大統領は2000年から04年までの在職中、公金を横領した疑いが持たれており、25日には米ニューヨーク連邦検事局が横領した公金を米国内の銀行口座で資金洗浄した罪などで起訴した。
1・27	ホンジュラス	クーデターで大統領職を追われたセラヤ(José Manuel Zelaya Rosales)氏の任期満了に伴い、昨年11月の大統領選挙で選出されたロボ(Porfirio Lobo Sosa)氏が新大統領に就任した。ブラジルなど中南米諸国の多くはクーデター政権下の選挙を認めず、新政権を承認していない。
1・29	アルゼンチン	中央銀行のレドラド(Hernán Martín Pérez Redrado)総裁は、総裁職を辞任したことを明らかにした。同総裁はフェルナンデス(Cristina Fernández de Kirchner)大統領が進めようとしている外貨準備を対外債務支払いに充てる基金の創設に「法律上問題がある」と反対。大統領が今年7日に解任を命じたが、裁判所が解任は無効と判断していた。
2・7	コスタリカ	アリアス(Óscar Rafael de Jesús Arias Sánchez)大統領の任期満了に伴う大統領選挙が実施され、自由貿易協定(FTA)の推進などを訴えた中道与党、国民解放党のチンチジャ(Laura Chinchilla)前副大統領が当選を確実にした。

2・10	コロンビア	サントス(Juan Manuel Santos Calderón)大統領は、北部サンタマルタを訪れた隣国ベネズエラのチャベス(Hugo Rafael Chávez Frías)大統領と会談し、約3週間ぶりに両国の国交を回復することで合意した。お互いの駐在大使を一時召還、ベネズエラが国境付近に軍を派遣するなど、緊張が高まった両国関係は修復に向かうことになった。
2・12	ブラジル	リオデジャネイロで、南米最大の真夏の祭典、カーニバルが始まった。祭典は市民から選ばれた「カーニバルの王」に、リオ市長が市の権限を象徴するカギを渡す恒例の儀式でスタート。同市観光局は16日までの観光客数が前年を10万人上回る73万人にのぼると予想している。
2・20	アルゼンチン	英国企業が南大西洋のフォークランド(マルビナス)諸島沖で計画している油田探査を巡り、同諸島の領有権を主張しているアルゼンチン政府は、タイアナ(Jorge Enrique Taiana)外相を米ニューヨークの国連本部に派遣する。24日にも潘基文事務総長に領土問題の仲介を求める方針。
2・22	ブラジル	サッカーの元ブラジル代表FWロナウド(Ronaldo Luís Nazário de Lima)が、来年限りで引退する意向を明言した。ロナウドは、在籍するコリンチャンスと新たに2年契約を結んだ後、「これが最後と決めた」と語った。
2・23	中南米 メキシコ カリブ地域	メキシコ東部の保養地、プラヤデルカメルンで開かれた中南米・カリブ海諸国の首脳会談は、地域の全独立国で構成する「ラテンアメリカ・カリブ海諸国共同体」の創設を承認して閉幕した。中南米地域を代表する機構を設けることで、国際社会での発言力を高めたい考え。米国やカナダが加わる米州機構(OAS)とは別の枠組みを設ける。
2・24	ブラジル 中南米	米務省は、クリントン(Hillary Rodham Clinton)国務長官が28日から3月5日までの予定で、ブラジルやグアテマラなど中南米5カ国を歴訪すると発表した。各国首脳らとの会談では、中南米諸国が「米国抜き」で創設することを決めた新共同体やハイチ地震の復興支援などが議題になるとみられる。
2・27	ブラジル	打楽器奏者モンテイロ(Flavio Monteiro)が、障害者や貧しい人でも気軽に音楽を楽しめるようにリサイクル素材で作った楽器を考案し、リオデジャネイロのカーニバルや演奏会で注目を集めている。「環境にもよく、将来は路上生活者に加工技術を教え、楽器として売り、生活向上に役立てて欲しい」と言う。
2・27	チリ	午前3時34分、マグニチュード8.8の強い地震があった。震源は首都サンティアゴの南西約325キロの大西洋沿岸地区で、震源の深さは約35キロ。広範な地域で最大2.3メートルの津波が観測されている。
3・1	チリ ブラジル アルゼンチン	チリで発生した大地震を巡り、国際社会の支援が動き始めた。隣国アルゼンチンが、55人の医師団を派遣して被災地3カ国で仮設診療所を開設する方針を発表したほか、ブラジルのルラ(Luiz Inácio Lula da Silva)大統領は、チリを緊急訪問。米務省もチリ政府の求めに応じて浄水施設や通信機器を提供する考えを示した。

3・3	ブラジル	クリントン米国務長官は、ブラジルを訪問してルラ大統領、アモリン(Celso Amorim)外相と会談し、ウラン濃縮活動を続けるイランへの国連安全保障理事会による追加制裁決議に支持を求めた。だが、ブラジル側は「双方が柔軟性を持てば、まだ話し合いの余地がある」(アモリン外相)と、決議反対の姿勢を表明。
3・5	ペルー コロンビア	自由貿易協定(FTA)をめぐる欧州連合(EU)とペルー、コロンビアの交渉が妥結し、5月にも仮署名する見通しとなった。EUからは自動車や機械などの鉱工業品、ペルーとコロンビアは農産品の輸出拡大を狙う。2008年のEUとアンデス共同体の貿易総額は約180億ユーロで、アンデス共同体にとってEUは米国に次ぐ貿易市場となっている。
3・5	メキシコ	約6500万年前の白亜紀末に恐竜などが大量絶滅したのは、メキシコ・ユカタン半島に巨大な隕石が衝突したことが原因と結論づける報告を、東北大など12カ国の研究機関がまとめ、科学誌サイエンスに発表した。これまでも隕石衝突説が有力視されていたが、異論もあり、論争になっていた。
3・10	メキシコ	米誌フォーブスがまとめた2010年版の世界長者番付によると、メキシコの通信・メディア王として著名な富豪のスリム(Carlos Slim Helú)氏が首位に立った。資産総額は535億ドル(約4兆8400億円)で、首位争いで常連だった米マイクロソフト会社ゲイツ(Bill Geitz)氏、米著名投資家バフェット(Warren Edward Buffett)氏を抜いた。
3・10	メキシコ	財務省と中央銀行は、国際通貨基金(IMF)に対して、今年4月に期限を迎える緊急融資制度「弾力的信用枠」を1年間延長するように要請した。弾力的信用枠は急激な資金流出に見舞われた際に備えた融資制度で、財政・経済運営が健全な新興国が対象となる。
3・11	ブラジル	検察当局が、メイレス(Henrique de Campos Meirelles)中央銀行総裁を対象とする脱税捜査を検討していることが明らかになった。同総裁は「過去にも捜査を受けたが、最終的に取り下げられた。収入や資産はすべて申告している」とのコメントを発表した。容疑の詳細は明らかになっていないが、米国居住時の資産などが対象とみられている。
3・11	チリ	ピネエラ新大統領が就任した。1990年の民政移管後に20年続いた左派政権から中道右派への初の政権交代だ。だが、ピノチェト軍事政権下の忌まわしい歴史も微妙な影を落としている。
3・12	ペルー	ラミレス(Enrique Cornejo Ramirez)運輸通信相は、1月の豪雨に伴う鉄道の寸断などで閉鎖されている同国南部の世界遺産マチュピチュ遺跡について、3月29日に観光客の立ち入りを再開できるとの見通しを明らかにした。遺跡に近いアグアスカリエンテス村と周辺の拠点都市クスコを結ぶ鉄道に一部復旧のめどがついた。
3・12	ペルー	フアン・フリオ・ビッチ(Juan Julio Witch Rossel)神父が首都リマで死去した。77歳だった。ビッチ氏は、1996年に発生した在ペルー日本大使公邸占拠・人質事件で、公邸に立てこもった左翼ゲリラ、トゥパック・アマル革命運動(MRTA)に解放を告げられたが、聖職者の責務を果たすとして、特殊部隊突入による事件解決まで邸内に留まった。

3・15	ブラジル	政府は、米国の綿花補助金に対抗し、米国の知的財産権を制限する報復案を公表した。報復措置は世界貿易基金(WTO)が認めており、医薬品や映画、音楽などの知的財産権が対象。実施されれば通商紛争の対抗策として、知的財産権が使われる世界初の事例となる。
3・15	ブラジル	リオデジャネイロで、コルコバードの丘に立つキリスト像に「リオを守れ」と書かれた横断幕がかけられた。リオデジャネイロ州はブラジル最大の産油地域で、石油税による収入は年約40億ドル。しかし、税収入を他都市に配分するための法改正が行われ、抗議運動が広がった。
3・18	メキシコ	米国との国境地帯で、複数の麻薬組織と治安当局の間の「麻薬戦争」が激化している。今月13日には米テキサス州との国境の街、シウダフアレス(チワワ州)で現地の米国領事館員とその家族、計3人も襲撃されて死亡。地元紙によると、今年に入ってから麻薬絡みの死者数は2000人を超えている。
3・25	アルゼンチン	政府は、2001年にデフォルト(債務不履行)に陥った円建て国債などについて、4月12日から新たな国債への交換を受け付けると発表した。同日、日本の金融庁に届け出た。アルゼンチンは05年、元本の大幅削減などを条件にデフォルト債の交換を実施。ただ債権者の25%程度はこれを応じなかった。
3・31	メキシコ	東部のカンクンで開いた石油産出国と消費国による「国際エネルギーフォーラム(IEF)」閣僚会議は、エネルギー価格の変動抑制で協調することなどを盛り込んだ閣僚宣言を採択した。産油国と消費国の対話を強化する枠組み作りを推進する方針も打ち出した。
4・1	ブラジル	サンパウロ証券取引所の代表的な株価指数、ボベスパ指数は、前日比1.09%高い7万1136円で取引を終えた。2008年6月5日以来、約22ヵ月ぶりの高値。米株式相場の上昇に加え、ブラジルの2月の工業生産統計が好調だったことを背景に、買いが膨らんだ。
4・4	メキシコ	北西部バハ・カリフォルニア州で午後3時40分ごろ、マグニチュード7.2の地震が発生した。同州で1人が死亡し、一部で停電が発生した。
4・5	ベネズエラ	ロシアのプーチン(Vladimir Vladimirovich Putin)首相は、ベネズエラ向けに50億ドル(約4700億円)の武器を受注する見通しとなったと述べた。ロシアは南米諸国への武器輸出を拡大しており、米国はベネズエラの軍備拡大に懸念を示している。ロシアとベネズエラの接近は米国の反発を招く可能性もある。
4・7	ブラジル	リオデジャネイロ市とその周辺で、5日から6日にかけての豪雨で土砂崩れが相次いで発生した。死者は98人に達しており、被害はさらに広がるとみられる。地元メディアは約40年ぶりの記録的な豪雨と伝えている。
4・15	ブラジル	ブラジル、ロシア、インド、中国の新興4か国(BRICS)は、ブラジリアで首脳会議を開き、米ドル以外の貿易決済の拡大や、国際金融の方向付けに関する新興・途上国の発言力強化を目指すことなどを盛り込んだ共同声明を発表し閉幕した。同首脳会議は昨年6月にロシアで初めて開催して以来2回目。

4・15	キューバ プエルトリコ	カルロス・フランキ(Carlos Frankie)氏が米自治領プエルトリコで死去した。89歳だった。フランキ氏は、カストロ(Fidel Alejandro Castro Ruz)氏が率いたキューバ革命運動に参加し、革命勢力の機関紙「レボルシオン」の編集幹部を務めたが革命後、カストロ氏と対立し、1963年にキューバを出国。90年代にプエルトリコに移り、キューバ問題を扱う季刊誌を創刊した。
4・20	ブラジル	米インターネット検索最大手のグーグルは、各国政府や捜査機関が、利用者の情報を求めたり、サイトを検索対象から除外するよう求めたりした国別の件数を初めて公表した。利用者情報の照会は、事件関係が中心だという。最多はグーグルが提供する情報交換サイトが盛んなブラジルの3663件だった。
4・21	ブラジル	首都がリオデジャネイロからブラジリアに移されてから、50周年を迎えたブラジリアでは、コンサートやパレードなどの記念イベントが開かれ、記念日を祝った。イベントは21日深夜まで続く予定で、主催者の地方政府は計130万人の参加を見込んでいる。
4・26	中米 メキシコ ホンジュラス エルサルバドル	米アリゾナ州で成立した移民法を巡り、中米諸国が、合法移民を含めた自国出身者への差別につながりかねないと反発を強めている。メキシコのカルデロン(Felipe de Jesús Calderón Hinojosa)大統領は、今後のオバマ(Barack Hussein Obama Jr.)米大統領との会談で議題として取り上げる考えを示しており、米国の中南米政策にも影響が出そうだ。エルサルバドルやホンジュラス政府も懸念を表明している。
5・7	ブラジル	マンテガ(Guido Mantega)財務省は、国際通貨基金(IMF)が実施するギリシャ支援の財源として、2億8600万ドル(約260億円)を拠出する考えを明らかにした。約2450億ドルある外貨準備をIMFに融資する方針で、IMFが実施する3年間で300億ユーロの支援の一部となる。
5・14	ブラジル	ロシアを訪問中のルラ大統領は、モスクワでメドベージェフ(Dmitrii Anatolievich Medvedev)大統領と会談し、ブラジルの油田共同開発などエネルギーや、宇宙分野などでの協力拡大で一致した。ルラ大統領は「自国通貨での決済は両国関係の強化に向けた第一歩」と語り、貿易でのドル離れを進めるべきだとの認識を示した。
5・17	ブラジル	イランのアフマディネジャド(Mahmūd Ahmadinejad)大統領は、テヘランでブラジルのルラ大統領、トルコのエルドアン(Recep Tayyip Erdoğan)首相と会談し、イランが保有する低濃縮ウランの一部を国外に搬出することで合意した。この新たな合意は、IAEAが昨年10月に示した提案を基本的に踏襲したもので、IAEA提案を拒否してきたイランとしては一定の譲歩をした形だ。
5・18	コスタリカ	国連気候変動枠組み条約事務局は、次期事務局長にコスタリカ政府の気候変動アドバイザーであるフィゲレス(Karen Christiana Figueres Olsen)氏を決めた。フィゲレス氏の父と兄は元コスタリカ大統領。自身はコスタリカ計画省の国際協力課長などの経歴を持つ。

5・22	トリニダード・トバゴ	接着剤などに使う工業薬品、メタノールがアジア市場で2ヵ月ぶりに上昇した。5月に入り、世界需要の25%を占める中国で生産調整が始まったことが主因。トリニダード・トバゴの生産設備も4月末に停止しており、世界的に需給は引き締まってきた。
5・24	アルゼンチン	コロン劇場が、改修工事を終えて3年半ぶりに公開された。地元の報道によると、スペインからの独立の一步となる自治政府誕生から200年を記念した行事を兼ね、バレエなどを約2700人の招待客が楽しんだほか、劇場の外壁に映し出された演奏や踊りの映像を大勢の市民が堪能した。
5・26	コロンビア アルゼンチン	麻薬密輸のための女性グループを率いていたとして、国際指名手配されていたコロンビア人のアンジー・サンクレメンテ・バレンシア (Angie Sanclemente Valencia) 容疑者が、アルゼンチンで逮捕された。同容疑者はコロンビア特産のコーヒーを世界にPRする「コーヒーの女王」に選ばれたこともあり、現地メディアは「麻薬の女王逮捕」と大きく伝えている。
5・26	ジャマイカ	首都キングストンのスラム街で、麻薬組織の首領の拘束を図る警察と組織が衝突し、銃撃戦に発展した。現地の行政調査官は、過去数日間の死者が一般市民44人を含む49人に達したと発表した。これまでに200人が拘束されたが、首領は捕まっていない。政府は23日に首都の一部に非常事態を宣言している。
5・26	ペルー	アマゾン川で、フェリーが沈没し、12人が死亡、100人以上が行方不明になっている。地元からの報道によると、乗客定員は146人だが、200人以上が乗船していたとみられる。
5・27	グアテマラ エクアドル	グアテマラで、首都グアテマラ市の南方約40キロにあるパカヤ火山が噴火した。コロン (Álvaro Colom Caballeros) 大統領は、火山周辺に非常事態宣言を発令。地元航空当局は、首都の国際空港を閉鎖した。一方、エクアドルでも、首都キトの南東約130キロにあるトゥングラウア火山が噴火、空港が閉鎖された。
6・21	キューバ	床屋と美容室の民営化を段階的に進めている。「現状追認」の色が濃くインパクトは乏しいが、「行きすぎた国営化」を是正し、経済を部分的に民にゆだねる動きの第一歩になる可能性がある。
6・22	ブラジル	北東部のアラゴアス州で21日まで続いた豪雨による洪水で少なくとも39人が死亡、1000人以上が行方不明、約10万人が家を失ったという。
6・22	ジャマイカ	米国が引き渡しを求めてきたギャング集団の指導者コーク (Michael Christopher Coke) 被告が、地元警察に逮捕された。約1ヵ月にわたった拘束作戦は首都キングストンとその周辺で治安部隊とギャングの激しい衝突を招き、AP通信によると76人が死亡した。
6・28	メキシコ	統一地方選を1週間後に控えた同国で、治安回復を公約に掲げたタマウリパス州知事候補トーレ (Rodolfo Torre) 氏が暗殺された。カルデロン大統領は麻薬組織の犯行と断定した。豊富な資金と武器で、使える政治家は抱き込み、邪魔なら殺す。組織が政界にかける圧力は、選挙を前に露骨さを増している。

6・30	ブラジル	リオデジャネイロの観光名所コルコバードの丘にたつ巨大キリスト像が、約4ヵ月の修復工事を終えて再公開された。今後7日間、サッカーW杯南アフリカ大会で6度目の優勝を目指すブラジル代表を応援するため、ブラジル国旗の色、緑と黄にライトアップされる。
7・7	キューバ	カトリック教会は、キューバ政府が政治犯52人を釈放することに同意したと発表した。うち5人は同日中にも釈放される見通しとしており、残る47人も数ヵ月のうちに釈放されるという。ローマ法王が同国を訪問した1998年に101人が釈放されて以来の規模。人権問題への配慮を示し、米国や欧州諸国との関係改善を図る狙いとみられる。
7・12	チリ	イースター島など南太平洋で、皆既日食が見られた。太陽が完全に月に隠れる皆既日食でしか見えない、太陽の周囲のコロナも見えた。
7・12	キューバ	フィデル・カストロ前国家評議会議長が中東情勢を論じた番組が放映された。2006年に病気療養入りしてから本格的なテレビ出演は初めて。出演したのは定例の時事番組で「米国とイスラエルがイランを攻撃すれば核戦争は避けられない」と持論を展開した。
7・15	ブラジル	5年前の7月、同時多発テロ事件後の厳戒態勢のロンドンの地下鉄で、ブラジル人の青年がテロリストと間違えられ警官に射殺される事件が起きた。英在住のブラジル人監督がこの実話を基に映画を作った。祖国を離れて働く普通のブラジル人に起きた事件を、実際に出稼ぎ中の一般のブラジル人を俳優に起用し、ドキュメンタリー風に描いた。
7・19	アルゼンチン	低体温症などで同日までに13人が死亡したほか、暖房の不完全燃焼と見られる一酸化炭素中毒で33人が死亡した。南部や中部では18日、零下14度を記録。ブエノスアイレスは16日、零下1.5度と過去10年間で最も寒かった。
7・25	ブラジル アルゼンチン	バレーボール男子の世界リーグ最終日は、アルゼンチンのコルドバで決勝を行い、ブラジルがロシアを3-1で下し、2年連続9度目の優勝を果たした。3位決定戦はセルビアがキューバに3-2で勝った。
7・25	メキシコ	全米で最も厳しいとされる不法移民取締法が成立した米西部アリゾナ州で、新法施行予定の29日を前に緊張が高まっている。不法移民の多くはメキシコ系。オバマ政権は、移民政策は連邦政府の専権事項として新法施行差し止めを求めて提訴したが、取り締まり強化の動きは他州にも広がっており、裁判の行方に注目が集まっている。
7・28	ブラジル エクアドル	ブラジルの首都ブラジリアで開催されている国連教育科学文化機関(UNESCO)の世界遺産委員会は、南米エクアドル領のガラパゴス諸島を「危機遺産リスト」から外すと発表した。
8・1	アルゼンチン ブラジル チリ	クラスター爆弾禁止条約は、2007年2月の交渉開始から3年半という速さで発効を迎えた。だが、爆弾製造国の半数以上は条約に未署名で、爆弾を投下された国に財政難もあるため、課題は山積している。ラテンアメリカ諸国では、チリが署名しているが、アルゼンチンとブラジルが未署名である。

8・9	南米 ブラジル	南米アマゾン川の源流から河口まで川に沿って歩く踏破に挑戦していた元英陸軍兵士スタンフォード (Ed Stanford) 氏が、2年4ヵ月をかけてブラジル北部の大西洋岸にたどり着いた。スタンフォード氏は到着後、「やろうと思えば何でもできることを証明した」と語った。
8・11	ベネズエラ	同国でツイッターの利用が急増していることが、明らかになった。米調査会社のコムスコアによると、ベネズエラのネット利用者のうち19%が6月にツイッターを使用、利用率で世界3位となった。反米姿勢や過激な発言で知られるチャベス大統領が、4月にツイッター利用を開始したのが契機となっている。
8・13	ブラジル チリ	ブラジル航空最大手のTAM航空とチリLAN航空は、合併することで合意したと発表した。共同の持ち株会社を設立し、両航空のブランドは残す方向だ。株主や当局の承認を得られれば、中南米で最大の航空会社「LATAM」が誕生することになる。
8・17	キューバ	複数の米主要メディアは、オバマ政権が一部米国人のキューバへの渡航制限を緩和する計画だと報じた。政府当局者らの話として伝えたもので、対象は教育機関、宗教、文化団体の関係者。人的交流の促進でキューバの民主化を促す狙いがあるようだ。
8・18	ブラジル メキシコ	南米クラブ王者を決めるリベルタドーレス杯は、ブラジルのポルトアレグレで決勝の第2戦を行い、インテルナシオナル(ブラジル)が3-2でグアダラハラ(メキシコ)に勝ち、第1戦との合計5-3で2006年以来、2度目の優勝を果たした。インテルナシオナルは、アラブ首長国連邦で行われるクラブW杯に南米代表として出場する。
8・19	ブラジル	リオデジャネイロ州で、機関銃などで武装した麻薬組織と警察隊が衝突。銃撃戦の末、逃亡した麻薬組織メンバー10人が、宿泊客や従業員35人を人質にとって高級ホテルを一時占拠した。メンバーは約2時間後に投降し人質は解放されたが、一連の銃撃戦で地元の女性1人が死亡した。
8・22	チリ	北部コピアポ近郊のサンホセ鉱山で今月5日に落盤事故があり、ピネラ大統領は、地下に閉じこめられ生存が絶望視されていた33人の労働者全員が、事故から17日たった現在も生存していることを明らかにした。
8・26	ボリビア	韓国と南米ボリビアは、ボリビアが世界有数の埋蔵量を誇る希少金属の一種、リチウムの資源開発をめぐり、今後両国間の協力を本格的に推進していくことで合意した。両国で鉱産物開発を担う公社が、ボリビア・ウユニ塩湖でのリチウム採掘の産業化へ協力する覚書を結んだ。
8・27	メキシコ	北東部タマウリパス州サンフェルナンドの農場で、麻薬組織に殺害されたとみられる不法移民72人の遺体が発見された。カルデロン政権が2006年に麻薬組織の撲滅を目指す「麻薬戦争」を宣言して以来、最悪の虐殺事件として衝撃が走っている。
8・27	メキシコ	最大の航空会社メヒカーナ航空は、28日正午をもって全便の運航を無期限停止すると発表。世界的な不況と昨春にメキシコで多数の死者を出した新型インフルエンザで打撃を受け、今月2日にメキシコと米国で破産を申請していた。

8・30	グアテマラ	米通商代表部(USTR)のカーク(Ronald Ron Kirk)代表は、ペンシルベニア州で講演し、中米グアテマラなどとの自由貿易協定(FTA)に盛り込んだ「労働者の権利」に関する義務に違反しているとして、同国政府を近く訴えると表明した。米国が貿易協定などを結んだ相手国との間で、労働分野で争うのは初。
9・1	ブラジル	中西部のマトグロッソ州政府は、同国最大規模の鉄鉱石鉱床を発見したと発表した。ボリビアとの国境に近いミラソルドエステ市に位置し、推定埋蔵量は110億トンとしている。肥料原料となるリン酸の鉱床も同時に確認されたとしており、同州で盛んな大豆などの穀物生産に活用する方針。
9・5	グアテマラ	集中豪雨による土砂崩れが相次ぎ、5日までに少なくとも40人が死亡した。さらに行方不明者が40人以上おり、犠牲者は増える恐れがある。同国政府は非常事態を宣言し、土砂の下敷きになった人たちの救出を急いでいる。
9・6	メキシコ	治安省はこのほど、内部の規律調査で基準を満たさなかった連邦警察官約3200人を免職処分にした。総員の1割弱にあたる大量解雇。国内で暗躍する麻薬組織が多額の報酬をえさに警察官を抱き込む例が後を絶たず、汚職根絶のために荒療治を強いられた。
9・13	キューバ	政府が認める同国唯一の労組、キューバ中央労働同盟は、50万人を上回る国家公務員が来年3月までに削減されると発表。慢性的な経済危機の下、人件費を削り、生産性を高めるのが狙い。ラウル・カストロ(Raúl Modesto Castro Ruz)国家評議会議長が2008年2月に就任して以来、最大規模の「経済改革」となる。
9・14	チリ	国連の潘基文事務総長は、男女平等や女性の地位向上に向けた新機関「国連ウィメン」を担当する事務次長に、ミチェル・バチチェ前チリ大統領を任命した。国連ウィメンは、総会決議に基づき、国連女性開発基金などの4組織を統合して今年7月に発足した。
9・19	チリ	翼を広げた大きさが5メートルを超える史上最大の鳥の化石をチリ北部の約500万～1000万年前の地層で発見したと、独ゼンケンベルグ研究所とチリ自然史博物館のチームが発表した。学名は「ペラゴルニス・チレンス(チリ産の海鳥)」と命名された。
9・26	ベネズエラ	国会議員選挙(一院制、定数165)が実施され、チャベス大統領率いる与党ベネズエラ統一社会党(PSUV)は、目標としていた重要法案などの単独採決に必要な3分の2以上の議席である110議席に届かなかった。チャベス政権が進める「社会主義革命」にブレーキがかかると地元メディアは報じている。
9・28	ブラジル	ルラ大統領の半生を描いた映画が、来年の米アカデミー賞の外国語映画賞の出品作品に選ばれた。来月3日に大統領選を控えており、ルラ氏の後継者として、初の女性大統領を目指すルセフ(Dilma Vana Rousseff)候補の支援を狙った「政治判断」との批判が対立陣営などから出ている。
9・28	メキシコ	南部オアハカ州で土砂崩れが発生し、住宅約300棟が下敷きとなった。多くの住民は就寝中だったとみられ、同州知事は500～1000人が死亡した恐れがあると述べた。

9・30	エクアドル	首都キトで給与など処遇の変更を巡り、抗議デモを展開していた一部の警官が暴徒化し、混乱が広がっている。デモ隊に自ら乗り込んだコレア (Rafael Vicente Correa Delgado) 大統領が、催涙ガスを浴びて病院に収容されたほか、政府は少なくとも1人の死亡を確認。全土に非常事態を宣言した。
10・1	グアテマラ	米国政府は、中米グアテマラで1946年～48年、当時新薬だった抗生物質ペニシリンが性病に効くかどうか実験するため、刑務所囚人や精神障害者らを故意に梅毒などに感染させたとして、同国に謝罪した。約7000人が実験の対象となったとされ、オバマ米大統領は、グアテマラのコロン大統領に電話で遺憾の意を伝えた。
10・7	ペルー	スウェーデン・アカデミーは、今年のノーベル文学賞を、ペルーの作家、バルガス・リョサ (Jorge Mario Pedro Vargas Llosa) 氏に授与すると発表した。授賞理由を「権力構造の『地図』を作り、個人の抵抗、反抗、挫折を鋭く描き出している」と説明した。賞金は1000万スウェーデンクローナ(約1億2000万円)。授賞式は12月10日、ストックホルムで開かれる。
10・13	チリ	鉱山落盤事故で、閉じ込められていた作業員33人すべての救出が終わった。最後まで残ったリーダーがカプセルから姿を見せると、待ちくたびれた仲間たちが嵐のような拍手で出迎えた。奇跡の生還に、世界が歓喜に包まれた。
10・19	メキシコ	司法当局は、米国境に接する北部ティファナで、134トンのマリファナを押収したと発表した。現地の報道によると、1回の押収量としては同国史上、最多という。メキシコからアメリカへの麻薬密輸額は、年間200～400億ドルに達するとされる。
10・22	メキシコ	北部シウダフアレスの住宅で深夜、銃乱射事件があり、中高生ら少なくとも14人が死亡、9歳の子どもを含む19人が負傷した。現場の住宅では誕生パーティーが開かれており、麻薬組織が対立組織のメンバーを狙ったとみられている。
10・25	ブラジル	小型旅客機メーカー、エンブラエルが中国の合弁工場の閉鎖を検討していることが明らかになった。生産機種の大規模化を求めているが、中国側の認可が得られていないためだ。同社は、認可が遅れている背景に中国が自国で開発中の旅客機との競合があるとみており、変更が認められない場合は中国から撤退する見通しだ。
10・27	アルゼンチン	ネストル・キルチネル (Néstor Carlos Kirchner) 氏が、南部エルカラファテの病院で心臓麻痺のため死去した。60歳だった。キルチネル氏は、サンタクルス州の知事を経て2003年、大統領に就任した。危機下の同国経済を立て直し、年8%台の安定成長を実現した。07年には、後継の座を妻クリスティナ・フェルナンデス現大統領に譲った。
10・27	ブラジル	世界自然保護基金 (WWF) は、南米アマゾンで2009年までの10年間に新種として発見された野生生物は約1200種に達すると、生物多様性条約第10回締約国会議で発表した。今後も新種が見つかる可能性があり、調査を継続する。

10・28	ブラジル	南部リオグランデドスル州の労働裁判所が、「12年間で30キロ太ったのはハンバーガー試食を強制されたせい」というマクドナルド元店長の男性(32)の訴えを認め、同社に3万リアル(約140万円)の支払いを命じた。マクドナルドのブラジル本部は、反論し、控訴を検討しているという。
10・31	ブラジル	ルラ大統領の任期満了に伴い実施されたブラジル大統領選挙の決選投票は、夕方に投票が締め切られ、選挙管理委員会当局による即時開票の結果、与党労働者党の初の女性候補ルセフ元官房長官の当選が確実となった。就任は2011年1月1日で、任期は4年。
11・5	ブラジル	国際通貨基金(IMF)の理事会で、IMFへの出資比率の見直し案を承認。経済成長が著しい新興国の出資比率は、6%超上がる。2012年10月のIMF総会までに、各国の批准を経て正式に発効することを目指す。なお新興国であるBRICsの出資比率は、ブラジル(10位)をはじめ、すべてトップ10位以内に入った。
11・8	ブラジル メキシコ	ブラジル、メキシコ両国政府は、自由貿易協定(FTA)を中心とする「戦略的経済統合協定」の交渉を本格化すると発表した。昨年8月、大統領間でFTA締結を視野に入れた通商関係の拡大で合意したのを受けて、サービス分野や競争条件整備を含む包括的な協定も結ぶ方針を打ち出した。
11・13	ブラジル	中国の温家宝首相はマカオ入りし、ポルトガルやブラジルなどポルトガル語を使用する諸国との経済関係強化を目指す閣僚会議の閉幕式に出席した。温首相はポルトガル語圏との金融協力を促進するため、10億ドル(約820億円)規模の基金を設立する方針を表明した。ポルトガル語圏との協力を深め、国際社会の対中批判を弱める狙いだ。
11・20	ペルー	米国の名門エール大が約100年前、ペルー南部にあるインカ帝国時代の遺跡マチュピチュで発掘し持ち帰った文化財について、返還を求めてきたペルーのガルシア(Alan Gabriel Ludwig Garcia Pérez)大統領は、エール大側が陶器類や人骨、繊維など4000点以上を返還することで合意したと発表した。
11・28	ブラジル	2016年夏季五輪の開催予定地である同国リオデジャネイロの治安当局と麻薬密売組織の衝突が激化している問題で、武装警察や陸軍兵士約2600人が、麻薬組織メンバー多数が潜伏する市北部のファベラ「アレマン地区」に進攻し、制圧した。麻薬組織対策で軍が動員されるのは異例。
12・5	エクアドル	政府は、石油開発で見込まれる10年分の収益70億ドル(約5850億円)の半額を国際社会が寄付してくれれば、森は永久に開発しないとする提案を行った。寄付金は森林管理や貧困撲滅などに使うとして、8月に国連開発計画(UNDP)と協力して寄付用の口座を開設。チリが10万ドルを提供し、市民の寄付も集まっている。
12・6	ブラジル	10月の連邦下院議員選挙で、男性コメディアンが全国最多得票で当選したものの、「読み書きができないのでは」との疑惑が持ち上がったため、裁判所で学力テストを受けた結果、「合格」し、議員への就任が認められた。10月の選挙では、約135万票と全国最多の得票を得た。

12・8	チリ	首都サンティアゴにあるサンミゲル刑務所で火事が起き、収監中の受刑者83人が焼死、200人が避難した。地元メディアによると、火事は刑務所の3階で午前4時半ごろに発生。四人同士のけんかが出火原因とみられる。
12・11	メキシコ	国連気候変動枠組み条約第16回締約国会議(COP16)はカンクン合意を採択し、閉幕した。京都議定書の延長は、COP17以降に結論を先送りにした。また、米中を含む全ての先進国、途上国を対象に温室効果ガス削減の包括的枠組みの構築を目指すとし、一定の前進を見せたが、法的拘束力の有無や成立期限は明示しなかった。
12・20	ブラジル	来年1日に退任するルラ大統領はテレビ番組で、2014年の大統領選に出馬する可能性について、「ノーとは言えない」と述べ、4年後に再登板を目指す考えを初めて示唆した。
12・23	ブラジル	BRICs(ブラジル、ロシア、インド、中国)首脳会議の議長である中国の楊潔篪外相は、南アフリカのヌコアナマシャバネ(Maite Nkoanamashabane)外相と電話で協議し、4カ国が南アフリカの首脳会議への正式参加を認めることで一致したと伝えた。
12・25	コロンビア	政府軍が、左翼ゲリラが活動拠点にする南部のジャングルに、巨大なクリスマスツリーを運んで、ゲリラに武装解除を呼びかけている。「家族の元に帰って、クリスマスをお祝いしよう」と、里心をつけさせる「クリスマス作戦」だ。この地域は、左翼武装ゲリラ「コロンビア革命軍(FARC)」が特に多い。今年になって2411人のゲリラが、武器を捨てたという。
12・31	ブラジル	ルラ大統領が、2期8年の任期を終える。貧しい靴磨きの少年から、同国史上最高の支持率を誇る大統領にのぼり詰めたルラ氏。ルセフ次期政権の後、2014年の大統領選への再出馬の可能性が取りざたされるなど、人気は衰えていない。

参考資料

- (1)聞蔵IIビジュアル。
- (2)日経テレコン21。
- (3)イベロアメリカ研究所新聞切り抜き(2010年)。

《資 料》

ラテンアメリカ日誌－２０１１年－

月 日	国名	記事
1・1	ブラジル	首都ブラジリアで、ジルマ・ルセフ(Dilma Vana Rousseff)氏の大統領就任式があり、同国初の女性大統領が誕生した。任期は4年。
1・1	ブラジル	航空機メーカーのエンブラエルは、2011年1月から軍需部門を「エンブラエル防衛・安全保障」として社内分社すると発表した。航空機に加えて軍などの情報システム開発も手掛ける予定だ。
1・3	ボリビア	モラレス(Juan Evo Morales Ayma)大統領が、前年12月26日に発表したガソリン・軽油への補助金を廃止する法令を、31日夜に撤回したと報じられた。補助金廃止に伴う燃油価格の急騰を受け、30日に首都で大規模デモが行われていた。
1・5	ブラジル	ブラジル自動車販売店連盟が発表した同国の2010年の新車販売台数は、前年比11.9%増の351万5120台となり、4年連続で過去最高を記録した。自動車市場において中国、米国、日本に次ぐ世界第4位に浮上したことになる。
1・6	キューバ	政府は、省庁や公営企業などで50万人にのぼる人員整理に着手した。ラウル・カストロ(Raúl Modesto Castro Ruz)国家評議会議長が進める経済改革の一環で、その分、民間企業に認める事業範囲を拡大し雇用の受け皿とする方針だ。
1・7	アルゼンチン	首都ブエノスアイレスで、地下トンネルから銀行の内部に侵入した窃盗団が、貸金庫の現金など推定650万ドル相当を盗む事件があった。銀行近くの建物に通じる長さ約30メートルのトンネルは数ヵ月間で掘られたとみられている。
1・8	ブラジル	リオデジャネイロに、男性用、女性用とは別にゲイやレズビアン専用の「第3のトイレ」が設置されると報じられた。場所は、2010年のカーニバルで優勝したチームが拠点とする施設内で、チーム参加者や関係者からの要望を受けたものだ。
1・8	ブラジル アルゼンチン チリ	ブラジル政府が、フォークランド(マルビーナス)諸島に向かっていたイギリス海軍艦船の、リオデジャネイロへの寄港を拒否した。同艦船は、代わりにチリに寄港した。
1・8	メキシコ	同国南部アカプルコの路上で、男性15人の遺体が見つかり、うち14人は頭部が切断されていた。麻薬密売組織「シナロア・カルテル」の犯行を示唆するメモが残されていた。市内の他の場所でも12人の殺害された遺体が発見された。
1・12	ハイチ	ベルリーブ(Jean-Max Bellerive)首相は記者会見で、前年1月の大地震による死者が31万6000人に達したと発表した。これまで23万～25万人との推計を示していたが、大幅に上方修正した。
1・13	ハイチ	大地震から1年を迎え、首都ポルトープランスの倒壊した大聖堂の前で追悼ミサが開かれ、同国では喪服のしるしである白い衣装に身を包んだ数千人の被災者たちが集まった。その他にも各地で追悼ミサが開かれた。

1・16	ブラジル	南東部リオデジャネイロ州で12日未明に起きた洪水や土砂崩れによる死者が、630人に達した。自然災害による人的被害としては同国で過去最大規模である。
1・18	ハイチ	検察当局は、16日に突然帰国した同国のジャンクロード・デュバリエ(Jean-Claude Duvalier)元大統領を訴追した。同氏は、在任中(1971～86年)に公金を横領した疑いが持たれている。
1・19	ブラジル	同国中央銀行は、政策金利である基準金利を0.5%引き上げ、年11.25%とすることを通貨政策委員会で決めた。金利の引き上げは、2010年7月以来半年ぶり。物価上昇傾向が続いているため、金融引き締め姿勢を明確にした。
1・23	ベネズエラ	米男子ゴルフツアーのボブ・ホープ・クラシックが米カリフォルニア州で行われ、ベネズエラのジョナタン・ベガス(Jhonattan Vegas)が優勝した。同国人としては、初の米国ツアーの制覇となった。
2・1	ブラジル	ルセフ大統領は、2016年にリオデジャネイロで開催されるオリンピックの運営組織長に、元ブラジル中央銀行総裁エンリケ・メイレルス(Henrique Meirelles)氏を任命した。
2・6	南米ペルー	ガルシア(Alan García)大統領は、同国で13日に開幕予定だった南米・アラブ諸国首脳会議を延期する方針を明らかにした。エジプト情勢などの緊迫を受け、アラブ諸国側の首脳は南米訪問が難しいと判断した。
2・7	ブラジル	カーニバル参加グループの工房や倉庫が集中するリオデジャネイロ中心部「シダージドサンバ」で火災が起き、多数の山車や衣装が消失した。装具製作の追い込みを行っていた最有力12チームのうち3チームが被害を受けた。
2・14	エクアドル	同国東部ラゴアグリオの地方裁判所は、油田周辺の環境汚染を巡る訴訟で、米石油大手のシェブロンに原告住民への80億ドルの賠償金支払いを命じる判決を下した。シェブロンは同日、上級裁判所に控訴する方針を発表した。
2・14	ホンジュラス	首都テグシガルパ近郊で小型機が墜落し、乗員乗客14人全員が死亡した。乗客には公共事業副大臣や元経済相ら政府要人が含まれており、政府は3日間の服喪を宣言した。
2・15	アルゼンチン	政府は、非自動輸入ライセンスの適用品目を50%増やすと発表した。高級車、自動車部品、ガラス、繊維、白物家電、携帯電話端末など、対象は多岐にわたる。
2・17	中米	中米統合機構(SICA)は、域内の食糧安全を向上させる目的で、2つの3年間計画を発表した。予算はおよそ3800万米ドルで、その大半を欧州連合(EU)が支出する。
2・21	メキシコ	メキシコ国立統計地理情報院(INEGI)は、2010年の実質国内総生産(GDP)が前年比5.5%増加したと発表した。製造業がけん引し、2000年以来10年ぶりの高い成長率となった。

2・22	ペルー	ガルシア大統領は、治安部隊と反体制デモ隊の衝突が続くリビアとの外交関係を凍結する声明を発表した。リビアでの騒乱拡大以後、国交凍結措置を打ち出した国は初めてである。
2・25	アルゼンチン パラグアイ	アルゼンチンのフェルナンデス(Cristina Fernández de Kirchner)大統領とパラグアイのルゴ(Fernando Armindo Lugo Méndez)大統領が、アルゼンチンのミシオネス州で行われたジャンレタ・ダム関連工事の落成式に参加した。同工事はダムの水位を83メートルに上昇させるもので、完成まで37年を要した。
3・15	ベネズエラ	ベネズエラと中国が、建設業や鉱業、石油部門への金融支援などいくつかの新しい協定を結んだ。プロジェクトは合計40億円にのぼる規模だ。調印はカラカスで行われた。
3・22	キューバ	フィデル・カストロ前国家評議会議長は、現地メディアなどへの寄稿で、共産党のトップである第1書記の職を、緊急手術を受けた2006年7月に辞任していたと明らかにした。
3・22	ドミニカ共和国	レオネル・フェルナンデス(Leonel Antonio Fernández Reyna)大統領は、公共交通機関のおよそ2000車両に天然ガスを使用する計画を発表した。その分の石油を他の部門に充て、石油輸入をおさえることが目的である。
3・22	中米	欧州連合(EU)が、コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、パナマの中米6ヵ国と自由貿易協定(FTA)を含む包括的な連合協定に仮署名した。
3・28	キューバ	カーター(Jimmy Carter)元米大統領がキューバを訪問した。両国関係の改善を模索する私的な訪問と位置付けられているが、同国で12日に有罪判決を受けた米国人の釈放を協議することが目的ではないかとの憶測も飛び交った。
3・30	パラグアイ アルゼンチン	2011年1月のパラグアイの牛肉輸出量が8.2トンにのぼり、同じ月に7.9トンだったアルゼンチンを史上初めて上回った。
3・30	ペルー	世界遺産マチュピチュ遺跡から持ち出され、米エール大学に保管されてきた発掘品約4万6000点が、約100年ぶりにペルーに返還された。大統領宮殿で1週間公開され、そののちクスコ大学で保管される。
4・5	エクアドル	政府は、コレア(Rafael Correa)大統領に批判的な言動をしたとして、ホッジス(Heather M. Hodges)駐エクアドル米大使に国外退去を命じた。内部告発サイト「ウィキリークス」が暴露した2009年の外交公電での大統領批判が原因となった。
4・14	メキシコ	北部タマウリパス州の町サンフェルナンドで、地面に掘られた穴から多数の遺体が見つかる事件があり、州当局は6日～14日までに145遺体を確認した。町は、米国国境からおよそ150キロメートルで、麻薬組織の活動が活発な地域にある。
4・19	キューバ	中長期の経済・社会政策を決定する共産党大会が、4日間の行程を終えて閉幕した。14年ぶり、6回目の大会であった。会期中には、農業や観光での非国营企業の活動を推奨する経済改革の方針が承認された。

4・19	キューバ	キューバ共産党は、党大会最終日に開いた全体会議で、フィデル・カストロ(Fidel Alejandro Castro Ruz)前国家評議会議長が、党トップの第1書記を正式に退任し、弟のラウル・カストロが第2書記から昇格する人事を発表した。
4・30	アルゼンチン	「トンネル」、「英雄たちと夏」などの作品で知られるエルネスト・サバト(Ernesto Sábato)氏が、ブエノスアイレスの自宅で気管支炎のため死去した。84年には、軍政下の人権弾圧で拷問・殺害された市民と遺族の証言を集めた報告書も発表した。
5・10	ブラジル	政府が、自動車の実質的な輸入規制政策を導入した。これまでほぼ無条件で許可していた通関審査が義務化された。アルゼンチンが同様の措置でブラジル製品の輸入を制限していることへの対抗が目的とされる。
5・10	メキシコ	カルデロン(Felipe Calderón Hinojosa)大統領が、生産低迷が続くメキシコ石油公社(ペメックス)の改革関連法案を、9月に開く議会に提出する意向を、出演した米テレビで表明した。外資を含めた民間企業資金を取り込むことなどが含まれる。
5・14	ハイチ	プレバル(René Préval)大統領の任期満了にともない実施された大統領選を経て、歌手のミシェル・マーテリー(Michel Joseph Martelly)が新大統領に就任した。同氏は3月20日に投票された大統領選で約7割の得票を獲得した。
5・16	グアテマラ	麻薬密輸組織に殺害されたとみられる27人の遺体が見つかった事件を受け、同国のコロン(Álvaro Colom Caballeros)大統領は、現場の北部ペテン県に30日間の非常事態を宣言した。
5・30	コロンビア チリ ペルー	3カ国の証券取引所が準備を進めていた共通の株式市場「ラテンアメリカ統合市場(Mila)」が正式に発足した。
6・4	チリ	同国南部のアンデス山脈にあるプジェウエ火山が、50年ぶりに大噴火した。火山灰がチリ、アルゼンチン、ウルグアイなどの広い範囲を覆い、3500人以上が避難する事態となった。
6・4	ブラジル	リオデジャネイロで、消防士ら約2000人が待遇改善を求めて宿舎に立てこもり、警官隊と衝突した末に439人が逮捕された。公共施設を壊した罪など、最長で34年の禁固刑に科せられる可能性のある消防士もいるという。
6・5	キューバ	習近平中国国家副主席が、キューバでラウル・カストロ国家評議会議長と会談した。両国の協力強化を確認したほか、中国企業の同国への投資を支援する方針も示した。
6・6	ペルー	5日にあった大統領選決選投票の開票結果を受け、国会議員のケイコ・フジモリ(Keiko Sofia Fujimori Higuchi)氏が敗北を認めた。左派で退役軍人のオジャンタ・ウラマ(Ollanta Moirsés Humala Tasso)氏はすでに勝利宣言していた。
6・14	プエルトリコ	オバマ(Barack Hussein Obama)米大統領が、米自治領プエルトリコを公式訪問した。米本土のプエルトリコ出身者やヒスパニック層の有権者に働きかけるのが狙いとされる。米大統領の公式訪問は、1961年のケネディ大統領以来50年ぶりであった。

6・26	ブラジル	国連食糧農業機関(FAO)は、本部ローマで開催中の総会で次期事務局長選挙を行い、ブラジル人でFAO中南米カリブ海地域代表のジョゼ・グラジアーノ・ダ・シルバ(José Graziano da Silva)氏を選出した。任期は2012年1月から4年間。
7・7	キューバ	同国のバンド「ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ」ギタリストのマヌエル・ガルバン(Manuel Galbán)氏が、ハバナで心臓発作で死去した。80歳であった。
7・7	ペルー	米国の学者がマチュピチュ遺跡を「発見」してから24日で100年となるのを記念し、遺跡で式典が開かれた。
7・11	ブラジル	政府は、リオデジネイローサンパウロ近郊間の高速鉄道計画について、入札条件を抜本的に見直して海外企業の参加を促すと発表した。同入札はすでに2回延期されており、今回も応札する企業グループが現れず不成立となった。
7・15	ベネズエラ	チャベス(Hugo Rafael Chávez Frías)大統領は、がん治療のために16日からキューバを再訪すると発表した。同大統領は6月にキューバでがんの摘出手術を受け、今月4日にベネズエラに帰国していた。
7・17	ウルグアイ	元大統領のフアン・マリア・ボルダベリ(Juan María Bordaberry)氏が、首都モンテビデオで死亡した。83歳であった。反体制派を違法に殺害した罪で2010年に禁固30年の有罪判決を受けたが、健康上の理由で自宅に軟禁されていた。
7・17	チリ	鉱山落盤事故で約70日地下に閉じ込められた鉱山作業員33人のうち31人が、政府を相手取って、安全管理を怠ったとして総額77億5000万ペソ(約13億円)の損害賠償を求める訴えを、首都サンティアゴの裁判所に起こした。
7・18	チリ	スーパーマンやハリーポッターなどの衣装に身を包んだ学生たちが、教育制度の改革を求めて首都サンティアゴでデモ集会を行った。同月6日には中部バルパライソで、2000人以上の学生が交際相手と一斉にキスをする抗議デモを行った。
7・20	ブラジル	同国中央銀行は、通貨政策委員会を開き政策金利である基準金利を0.25%引き上げて年12.50%とすることを決めた。利上げを開始した1月から5会合連続で、上げ幅は合わせて1.75%に達する。
7・24	ウルグアイ アルゼンチン	サッカー南米選手権の決勝がブエノスアイレスで行われ、2010年ワールドカップ4位のウルグアイが優勝を決めた。1995年から6大会ぶりとなる優勝で、同選手権では単独最多となる15度目を飾った。
7・30	ペルー	7つの事件で起訴されていたフジモリ(Alberto Kenya Fujimori)元大統領の有罪判決が、すべての事件で確定した。在任中の公金横領罪に問われた裁判の控訴審で、最高裁が2009年7月の一審判決を支持する判決を下したためである。
8・1	コスタリカ	中国とコスタリカの自由貿易協定(FTA)が発効した。両国間で貿易される品目の90%の関税が段階的に撤廃される。中国側は繊維や自動車、野菜など、コスタリカ側はコーヒーや肉類、パイナップルなどのジュース類を輸出しやすくなる。
8・1	スリナム	アラブ首長国連邦(UAE)ドバイの港湾管理会社ドバイ・ポーツ・ワールド(DPワールド)が、スリナムで2つの港湾の操業権を取得した。

8・1	ベネズエラ	チャベス大統領は、国営テレビでリビアの最高指導者カダフィ大佐(Muammar Gaddafi)からの親書を読み上げ、大佐を「尊敬している」と評価し、カダフィ政権に対する支持を改めて表明した。
8・2	ハイチ	弁護士のグース(Bernard Gousse)元司法相を首相に充てるマーテリー大統領の人事案が、上院で否決された。首相人事案の否決は、6月下旬に続き2回目。
8・6	グレナダ	ロンドンで行われた陸上のダイヤモンドリーグで、グレナダの18歳キラニ・ジェームズ(Kirani James)が男子400mで優勝した。
8・6	南米	中国の白物家電大手である広東美的電気は、米エアコン大手キャリアの南米事業を買収すると発表した。
8・13	キューバ	2007年に性転換手術を受けた元男性と元修道士が、同国初となるゲイのカップルとして挙式を行った。前の年に、かつてゲイを差別したことを認めたカストロ前議長への敬意を示し、前議長が85歳を迎えるこの日を選んだという。
8・15	アルゼンチン	選挙管理当局は、10月23日の大統領選を前に14日に実施された予備選挙で、現職のフェルナンデス大統領が約半数の票を獲得したことを明らかにした。
8・17	ベネズエラ	チャベス大統領は、欧州や米国の銀行に保管している外貨準備の金(ゴールド)資産をベネズエラ国内に移送すると発表した。海外資産の差し押さえなどを回避するための措置とみられる。国内の金採掘・精錬産業を国有化する方針も発表した。
8・18	メキシコ	独占石油公社のペメックスが、既存の3油田について、英エンジニアリング社などに操業を委託すると発表した。1933年に石油産業を国有化したメキシコで、民間企業が初めて原油採掘に乗り出す。
8・23	ニカラグア	政府幹部は、リビアの最高指導者カダフィ大佐が同国への亡命を求めた場合に受け入れる考えを表明した。
8・25	メキシコ	メキシコ北部モンテレイで、武装グループがカジノに放火、大規模な火災が発生し、客や従業員ら少なくとも53人が死亡した。
8・29	グアテマラ	1940年代に米国の科学者が、薬の効果を確かめる目的でグアテマラの刑務所や精神科病院で故意に性病に感染させる人体実験を行っていた問題で、オバマ米大統領直轄の調査委員会は、実験対象となった83人が死亡したと明らかにした。
8・30	チリ	政府は、前年の北部コピアポ近郊のサンホセ鉱山事故で地下に閉じ込められた作業員33人のうち14人に対し、月額25万ペソ(約4万円)の年金を支給すると決め、証書を交付した。
8・31	ブラジル	同国中央銀行は、9月1日から政策金利を0.50%幅引き下げて12.00%とすることを決めた。利下げは2009年7月以来約2年ぶり。

9・3	キューバ	「革命世代」の1人、フリオ・カサス・レゲイロ(Jullio Casas Regueiro)国防相が心不全のため首都ハバナで死去した。75歳であった。国家評議会副議長やキューバ共産党政治局員も務める重鎮で、ラウル・カストロ議長の側近の1人であった。
9・13	アルゼンチン	首都ブエノスアイレスで、列車とバスが衝突した後、さらにそこに反対方向からの列車が衝突する事故があり、少なくとも7人が死亡、170人が負傷した。地元メディアによると、踏切の遮断機をくぐったバスに列車が衝突したという。
9・13	ベネズエラ	ベネズエラの選挙管理当局は、2013年1月に就任する次期大統領を選出する選挙を、2012年10月7日に実施すると発表した。同国では就任前年の12月に大統領選挙を実施するのが慣例となっており、実質2ヵ月前倒しする。
9・15	ブラジル	政府は、輸入車や現地での部品調達率が一定水準に満たない現地生産車を対象に、工場出荷額や輸入価格(関税課税後)に課される「工業品税」の税率を30%上乘せすると発表した。2012年末までの限定措置。
9・23	グアテマラ	マヤ文明のナクム遺跡で2つの王墓が発見された。1つは1300年前のもので、その下の約2000年前の墓からは、女性の支配者と見られる遺骨が見つかった。
9・23	メキシコ	1997年に起きた先住民45人の虐殺事件をめぐり、その遺族や生存者が、メキシコの元大統領で米エール大学教授のエルネスト・セディージョ(Ernesto Zedillo)氏を相手に損害賠償を求め、米国で提訴した。
10・3	コロンビア パナマ	米国が、コロンビア、パナマとそれぞれ調印した自由貿易協定(FTA)が発効する見通しとなった。オバマ大統領が実施法案を議会に提案し、批准承認を要請した。
10・4	ハイチ	国連開発計画(UNDP)などで貧困国を支援してきたギャリー・コニーユ(Garry Conille)氏の首相就任が、上院で承認された。下院ではすでに承認済みであり、ようやく内閣発足にこぎつけた。
10・18	中米	メキシコ南東部から中米コスタリカにかけての一角が激しい豪雨に見舞われ、16日までに少なくとも計81人の死亡が確認された。行方不明者も多数出ている。
10・23	アルゼンチン	同国の大統領選で、中道左派ペロン党の現職クリスティナ・フェルナンデス氏が当選を決めた。南米の女性大統領としては初めての再選。軍事政権から民政移管した1983年以来の最多得票を獲得する見通しだ。
10・29	ブラジル	サンパウロの病院関係者が、ルラ(Luiz Inácio Lula da Silva)前大統領の喉頭に悪性腫瘍が見つかり、近く化学療法を開始することを明らかにした。
10・30	コロンビア	首都ボゴタ市長に左翼ゲリラ「4月19日運動」(M19)元メンバーのグスタボ・ペトロ(Gustavo Petro)上院議員が初当選した。
10・31	ベネズエラ	選挙管理当局は、1万5500人あまりの「高齢すぎる有権者」の登録を停止したと発表した。対象となったのは、現在の年齢が111歳から129歳に該当する有権者。有権者名簿を更新する取り組みの一環として実施された。

11・3	キューバ	政府は、国民と永住権をもつ外国人に住宅の売買を認めることを発表した。ラウル・カストロ政権が進める経済改革の最大の柱で、11月10日から可能となる。これまでは住民が自分たちで家同士の「交換」をしてきた。
11・4	コロンビア	サントス(Juan Manuel Santos Calderón)大統領は、同国最大の左翼ゲリラ「コロンビア革命軍」(FARC)の最高指導者アルフォンソ・カノ(Alfonso Cano)氏が治安部隊との戦闘で死亡したと語った。
11・6	アルゼンチン	英石油大手BPがアルゼンチンの石油大手ブリダストと合意していた同国の石油大手パン・アメリカン・エネルギー(PAE)の株式売却が白紙になったと欧米メディアが報じた。アルゼンチンの独占禁止法に抵触したことが原因とみられる。
11・6	グアテマラ	現職の任期満了に伴う大統領選の決選投票があり、元軍人で右派・愛国党のオットー・ペレス・モリーナ(Otto Pérez Molina)氏が当選を決めた。
11・7	アルゼンチン	スペインの石油会社レプソル傘下にあるアルゼンチンのYPF社は、ネウケン州のロマ・ラ・ラタ地区で、同社にとり過去最大規模のシェールオイル資源を発見したと発表した。原油換算9億バレル以上と見積られる。
11・7	コロンビア	同国中央部で5日に土砂崩れが起き、7日までに38人の死者が確認された。
11・7	ニカラグア	反米左派サンディニスタ民族解放戦線(FSLN)のダニエル・オルテガ(José Daniel Ortega Saavedra)大統領が、憲法で禁止されている連続再選を決めた。最高裁が立候補を認めたために参戦したが、選挙の公正さへの疑惑が浮上している。
11・11	メキシコ	ブレイク(Francisco Blake Mora)内相らが乗ったヘリコプターがメキシコ市近郊で墜落した。政府は、同内相を含む搭乗者8人全員が死亡したと発表した。
11・13	ブラジル	同国リオデジャネイロ当局は、リオ最大のファベラ「ロシーニャ」から、麻薬密売組織を一掃したと発表した。軍警察や海軍の特殊部隊など3000人が動員された。銃撃戦などにはならなかったという。
11・18	ブラジル	ルセフ大統領は、軍事政権(1964年～85年)などによる人道犯罪を調査するための「真実委員会」設立と機密文書公開を認める2つの法案に署名、両法が成立した。同委員会は6ヵ月後に発足する。
11・21	ブラジル	リオデジャネイロ沖の海底油田で原油流出事故があり、同国政府は、操業する米石油大手シェブロン社に対し、5000万リアル(約21億円)の罰金を課すと発表した。油田のある海域はクジラやイルカが回遊する場所で、多くの海洋生物への影響が心配される。
11・30	キューバ	ロシア有力紙コメルサントが、ロシアがキューバとの軍事協力を再開することになったと報じた。近く、自動小銃用弾薬の製造施設売却などで合意する見通しになったという。
12・1	ブラジル	政府は、景気刺激のため冷蔵庫や洗濯機などの減税に踏み切った。海外からの投資への課税も減免する。欧州の債務危機の影響が及んでおり、利下げとあわせた緊急対策となった。

12・2	中南米 カリブ地域	中南米・カリブ地域33ヵ国の首脳による新たな組織「中南米カリブ海諸国共同体(CELAC)」が発足した。米国主導の米州機構(OAS)に対抗した組織で、米国とカナダを排除し、結束を図る。
12・3	ガイアナ	人民進歩・市民党のドナルド・ラモター(Donald Ramotar)氏が新大統領に就任した。任期は5年。前任のジャグデオ(Bharrat Jagdeo)氏は、憲法の3選規定に従い退任した。
12・6	ブラジル	同国地理統計院が発表した7月～9月期の実質国内総生産(GDP)は、前期比0.04%減となり、2009年1月～3月期以来、2年半ぶりのマイナス成長となった。
12・8	ペルー	1980～1990年代に政府軍と激しく対峙した左翼ゲリラ「センデロ・ルミノソ」残党2派のうち1派の幹部が、政府軍との停戦を宣言し、和平交渉開始を呼びかけた。
12・10	メキシコ	米地質調査所(USGS)によると、メキシコ南部ゲレロ州などで午後8時ごろ、マグニチュード6.5の地震があった。
12・11	パナマ	元独裁的指導者で、1989～90年の米国パナマ侵攻時に拘束されたノリエガ(Manuel Antonio Noriega Moreno)元将軍が、22年ぶりに帰国した。米国で麻薬取引などに関わる罪で服役後、2010年フランスに引き渡され資金洗浄などの罪で服役していた。パナマでは、人道に反する罪で20年間服役する。
12・13	中南米	米アップル社は、ブラジル、アルゼンチン、ボリビア、チリ、コロンビア、コスタリカ、ドミニカ共和国、エクアドル、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグアなどでiTunes-Sotreを開始すると発表した。
12・14	ブラジル	同国の競争監視当局は、同国航空大手のTAM航空と、チリ最大手のLAN航空の経営統合を条件付きで認めることを決めた。チリ当局も条件つきで承認しており、世界10位程度の航空グループ設立に向けて前進した。
12・15	キューバ	フィデル・カストロ前国家評議会議長が、暗殺されかけた回数が最も多い人物として、ギネスブックに掲載されることが決まった。一線を退いた2006年までに、CIAなどによる638の暗殺計画があったと同国メディアは伝えている。
12・15	ブラジル	政府は、サンパウロなど3都市の国際空港の運営民営化を目指した入札を2012年2月に実施すると発表した。2014年6月開幕のサッカーワールドカップまでに、ターミナルビルの新築を間に合わせることを条件としている。
12・19	ブラジル	保健省と食品関連団体は、スナック菓子やビスケットなどの塩分量を、翌年から2016年にかけて段階的に引き下げる目標を設定した。
12・21	メキシコ	南東部ベラクルス州の州政府は、最大都市ベラクルスとその近郊を担当する警察組織を解体し、所属する警察官900人と事務職員100人の全員を解雇した。全国で始まった警察改革の一環という。
12・23	キューバ	政府は、「国家の安全」を脅かしたとして収監されている政治犯を一部含む2900人を釈放すると発表した。翌年春にローマ法王ベネディクト16世の訪問が予定されており、それ以前に国際社会の批判をかわす狙いとみられる。

12・26	ブラジル	英国の民間研究機関CEBRが、資源や食糧の好調な輸出を背景に、ブラジルの2011年の経済規模が英国を抜き世界6位になったとの分析を発表した。英BBC放送が伝えた。
12・27	アルゼンチン	大統領府は、フェルナンデス大統領に甲状腺がんが見つかり、翌年1月4日に手術をすると発表した。
12・28	ベネズエラ	チャベス大統領が、南米大統領が次々がんになっているのは米国の陰謀だという説を、軍の公式行事で唱えた。
12・29	ジャマイカ	総選挙の暫定集計の結果、野党の人民国家党(PNP)が、与党ジャマイカ労働党(JLP)を破り、政権が交代する見通しとなった。

参考資料

- (1)聞蔵IIビジュアル
- (2)日経テレコン21
- (3)毎索
- (4)読売新聞(2011年)
- (5)(社)ラテン・アメリカ協会ニュースアーカイブ
- (6)Archive for Latin American Weekly Report

ラテンアメリカ日誌－2012年－

月 日	国名	記事
1・4	ブラジル	ブラジル自動車販売店連盟によると、2011年通年の新車販売台数が過去最高の363万3006台となった。ただし、10年末から融資規制が強化されたために販売の拡大にブレーキがかかり、前年と比べ伸び率は大幅に鈍った。
1・5	エクアドル	ヤスニ国立公園のアマゾン原生林を油田開発から守るための基金が、2011年末までの目標額に達したことがわかった。油田開発によって見込まれる収入の半額を2013年までに国際社会が提供すれば同国が今後の油田開発を放棄するという試みで、政府と国連開発計画が調印し、2000年に始まった。
1・5	メキシコ	西部を縦走する西マドレ山脈に建設中のバルアルテ橋が、地上から橋までの高さが約402メートルの世界一高い斜張橋としてギネス世界記録に認定された。シナロア州とドゥランゴ州の境に位置し、「悪魔の背骨」と呼ばれる急峻な山脈地帯を横切る。
1・6	ジャマイカ	2011年12月の総選挙で勝利し首相に就任した人民国家党(PNP)のシンプソン＝ミラー(Portia Simpson-Miller)党首は、イギリス国王を国家元首とする英連邦から離れ、独自の大統領を国民が選ぶ共和制に移行する方針を発表した。
1・8	中南米	イランのアフマディネジャド(Mahumud Ahmadinejad)大統領が、中南米歴訪を開始した。5日間でベネズエラ、ニカラグア、キューバ、エクアドルの4カ国を訪問する。米国でイラン原油制裁法が成立し、欧州連合(EU)もイラン産原油の禁輸に大筋で合意するなか、中南米の政権との関係を強化する狙いとみられる。
1・11	ブラジル	ブラジル自動車工業会がまとめた2011年の自動車生産台数は304万6150台で過去最高を更新した。ただし前年比は0.7%に止まった。韓国や中国をはじめとする輸入車販売の増加で国内生産は伸び悩んだ。
1・12	ハイチ	20万人以上の死者を出したとされる大地震から2年となるこの日、首都ポルトープランス北部の集団墓地で追悼集會が開かれた。
1・14	グアテマラ	2011年11月6日に行われた大統領選の決選投票で当選した右派で元軍人のオットー・ペレス＝モリーナ(Otto Pérez Molina)氏が大統領に就任した。任期は4年。
1・19	エクアドル	コレア(Rafael Correa)大統領が就任5周年を迎えた。同国では、同氏が着任した2007年までの10年間で7人が大統領の座に就いていた。
1・23	キューバ	スペイン石油大手のレプソルYPFが、1月中にもキューバ沖での海底油田探査のための試掘に着手する。キューバ国営ニュースサイトが伝えた。キューバ沖に到着した探査のための海上基地は、首都ハバナの海岸通りからも確認できる。

1・25	ブラジル	リオデジャネイロ市で市中心部の市立劇場に隣接するオフィスビルなど3棟が倒壊し、6人が死亡、20人近くが行方不明となっている。市当局は、最初に倒壊した20階建てのビル内で違法な工事が行われていたとみて調査している。
1・26	メキシコ	国連当局は、米ニューヨークの国連本部にメキシコ市から白い粉が入った袋が2つ届き、ニューヨーク市警が捜査中だと発表した。袋には国連のマークが印刷され、外交文書に偽装されていた。
1・29	キューバ	ラウル・カストロ(Raúl Castro)国家評議会議長は、政党や党の主要な役職の任期を連続10年に制限する方針を示した。共産党が初めて開いた全国会議での閉幕演説の中で言及した。具体的な実施時期は明らかにしていない。
2・2	アルゼンチン	英国軍の救助ヘリの操縦士をしているウィリアム王子(Prince William, Duke of Cambridge)がフォークランド(マルビーナス)諸島に赴任した。アルゼンチンの首都ブエノスアイレスの英国大使館前では、これに反発する抗議デモが行われた。英国が同諸島沖で油田開発を始めたことを機に、同諸島の帰属をめぐる議論が再燃している。
2・3	キューバ	フィデル・カストロ(Fidel Castro)前国家評議会議長は、新たに出版された自身の回顧録を紹介するイベントに出席、外交や経済、科学技術など幅広いテーマで熱弁をふるうなど、聴衆とともに約6時間を過ごした。共産党機関紙グランマが4日、伝えた。
2・4	チリ	パタゴニア地方にあるホルヘ・モント氷河から氷約5トンが盗まれ、警察当局は氷を運んでいたトラックを発見し、窃盗容疑で運転手を拘束した。
2・9	ペルー	北部海岸地帯の遺跡で、年代測定ができたものとしては南米最古となるトウモロコシの化石が発見された。形状などからポップコーンに使われる種類だと見られる。米スミソニアン自然史博物館とペルーの国立歴史アカデミーなどのグループが発表した。
2・10	ブラジル	北東部のバイア州で1月31日から軍警察官およそ1万人が賃上げストを続けており、州都サルバドールなどで治安が悪化していると報じられた。またリオデジャネイロ州ではこの日、警察官や消防士らの団体が賃上げストに入った。
2・14	ホンジュラス	中部コマヤグアの刑務所で火災が発生し、同国司法当局は少なくとも357人が死亡、多数が負傷したと明らかにした。
2・17	ブラジル	リオデジャネイロのカーニバルが始まった。19日からは、精鋭13チームによるパレードが専用会場「サンボドロモ」で2夜に渡って行われる。
2・20	メキシコ	クリントン(Hillary Clinton)米国务長官とメキシコのエスピノサ(Patricia Espinosa Cantellano)外相は、メキシコ湾の資源開発で両国の協力促進を柱とした合意文書に署名した。
2・22	アルゼンチン	首都ブエノスアイレスで現地時間の朝、通勤客を乗せた列車が終点オンセ駅で止まりきれずに駅施設に衝突し一部が脱線。地元当局によると、少なくとも50人が死亡、670人以上が負傷した。

2・22	ブラジル	サンパウロ大学のチームが、アメリカ大陸で最古と推定される約1万2000年前の岩絵をブラジル中部の遺跡で発見した。男性の姿を描いたとみられる。
2・24	ハイチ	ハイチ大統領府は、マーテリー(Michel Martelly)大統領がコニーユ(Garry Conille)首相の辞表を受理したと発表した。コニーユ氏は2011年10月に就任。
2・26	コロンビア	左翼ゲリラ組織のコロンビア革命軍(FARC)が、今後は民間人を誘拐しないと発表した。10年以上拘束している警官や軍人ら10人も近く解放するという。
3・4	ベネズエラ	ベネズエラ国営テレビは、前月27日にキューバで腫瘍の摘出手術を受けたチャベス(Hugo Chávez)大統領の演説を録画で放送し、腫瘍が前年6月に摘出した悪性腫瘍の再発だったことが明らかにされた。同大統領は16日夜に約3週間ぶりに帰国した。
3・13	アルゼンチン	最高裁が、強姦の被害にあった女性の人工妊娠中絶を認める判断を初めて示した。現行法の表現があいまいだったことが発端となり、大きな議論を巻き起こしていた。
3・13	ブラジル	もともと出稼ぎを送り出してきたブラジルで、近年ではサッカーワールドカップやオリンピックの開催を控えた好景気に引き寄せられ、逆に移住してくる人が増えていることが報じられた。特に、欧州危機の直撃を受けた旧宗主国ポルトガルの人びとが目立っている。
3・15	ブラジル	米石油会社のシェブロンは、ブラジルのリオデジャネイロ州沖で採掘している海底油田「フラージ鉱区」で原油流出が確認され、当面の間操業を停止する許可をブラジル石油監督庁(ANP)に申請したと発表した。
3・20	メキシコ	現地時間午後0時2分ごろ、同国南部でマグニチュード7.4の地震があった。震源地は同国南部ゲレロ州とオアハカ州の州境付近。同国政府によると、民家が倒壊するなどして計11人が負傷した。
3・23	メキシコ	ローマ法王ベネディクト16世が、メキシコとキューバの訪問に出発した。メキシコでは中部グアナフアト州でレオンなどを回り、30万人規模ともいわれるミサに臨むと報じられた。
3・26	キューバ	ローマ法王ベネディクト16世がキューバ東部サンティアゴデクーバに到着した。法王のキューバ訪問は、1998年の故ヨハネ・パウロ二世以来14年ぶり。サンティアゴデクーバの革命広場で行ったミサには約20万人が参列した。
3・27	キューバ	首都ハバナに到着したローマ法王ベネディクト16世は、革命宮殿でラウル・カストロ国家評議会議長と会談した。28日にはフィデル・カストロ前国家評議会議長と会談した。同日、ハバナの革命広場では約30万人の市民を集めた野外ミサを開いた。
4・1	メキシコ	元大統領ミゲル・デ・ラ・マドリ＝ウルタド(Miguel de la Madrid Hurtado)が肺炎腫のためメキシコ市の病院で死去した。享年77歳。1982年に大統領に就任し、88年までの在任中に外資導入や国営企業民営化などの経済改革に取り組んだ。

4・2	コロンビア	左翼ゲリラFARCは、収監されている革命軍メンバーと交換する政治目的で誘拐した軍、警察関係者ら人質10人を解放した。政府を和平交渉のテーブルに引き出すための戦略とみられている。
4・2	メキシコ	メキシコのカルデロン(Felipe Calderón)大統領、アメリカのオバマ(Barack Obama)大統領、カナダのハーパー(Stephen Harper)首相が北米首脳会議を開催した。メキシコとカナダは環太平洋経済連携協定(TPP)への参加意欲をあらためて表明した。
4・9	ペルー	左翼ゲリラのセンデロ・ルミノソが、南部でガスパイプラインを運営するスウェーデン建設大手スカンスカの従業員を誘拐した。誘拐されたおよそ30人のうち、一部は解放された。
4・11	ペルー	南部イカ州のカベサデネグロ鉱山で、地下約200メートルに閉じ込められた9人の作業員が6日ぶりに救出された。今月5日に、閉鎖された鉱山で違法採掘中に落盤事故にあった。
4・11	メキシコ	米地質調査所(USGS)によると、メキシコ中西部ミチョアカンで現地時間午後5時55分ごろ、マグニチュード6.5の地震があった。
4・15	中南米	コロンビアのカルタヘナで14日から開かれていた第6回米州機構(OAS)サミットが閉幕した。今後のキューバのOAS参加やマルビーナス諸島の帰属をめぐる中米・カリブ諸国と米国などが対立し、宣言文書は採択されなかった。
4・16	アルゼンチン	フェルナンデス(Cristina Fernández de Kirchner)大統領は、スペインの石油大手レプソル傘下のYPFを実質国有化する法案を議会に提出すると発表した。スペインや欧州は強く反発している。
4・16	ブラジル ドミニカ共和国	ベルギーのビール大手アンハイザー・ブッシュ・インベブのブラジル部門で、同国ビール最大手のアンベブは、ドミニカ共和国の同業大手CNDを買収すると発表した。
4・20	アルゼンチン ブラジル ウルグアイ	アルゼンチンが国有化を宣言した石油会社YPFで監督者を務めるフリオ・デ・ビド(Julio De Vido)企画・公共投資相がブラジルを訪問。エジソン・ロバン(Edison Lobão)鉱業・エネルギー相らと首都ブラジリアで会談し、ペトロbrasによる投資増やYPFへの協力を呼びかけた。
4・25	ペルー	北部の海岸に4月下旬までに、ペリカンなどの鳥類およそ1200羽とイルカ約900頭の死骸が打ち上げられ、原因をめぐって大きな論争になっていると報じられた。当局はウイルス感染との見方を示しているが、環境保護団体は沿岸部での石油開発が影響したと訴えている。
5・1	ボリビア	モラレス(Evo Morales)大統領は、スペイン系送電会社TDEを国有化する方針を示した。
5・10	ブラジル	上院議会は、2014年に行われるサッカー・ワールドカップのスタジアムで酒類を販売することを容認する特別法案を可決した。酔ったファンが過激化する恐れがあるとの理由で国内では反対意見が根強いが、ビール会社をスポンサーに持つ国際サッカー連盟が同国政府に酒類販売を認めるよう要請していた。

5・11	グアテマラ	マヤ文明最古の天文記録とみられる壁画が見つかった。米ボストン大学の考古学者らが11日付の米科学誌で発表した。9世紀に作成されたとみられている。
5・21	ブラジル	マンテガ(Guido Mantega)財務相は、自動車にかかる工業品税(IPI)の税率軽減策を発表した。消費意欲を促して景気を下支えする狙いがある。約3ヵ月間の期間限定で実施する。
5・26	メキシコ パナマ	現代ラテンアメリカ文学を代表する作家、カルロス・フエンテス(Carlos Fuentes)氏がメキシコ市の病院で死去した。享年83歳。生まれはパナマ。ガルシア・マルケス(Gabriel García Márquez)氏らとともに、1960年代のラテンアメリカ文学ブームを引っ張った立役者の1人。
6・3	キューバ	5月に発行された2012年版の電話帳に、1959年の革命以来初めて自営業者らの広告が掲載されたことが報じられた。目立った反応や効果はまだみられないという。
6・6	メキシコ コロンビア チリ ペルー	中南米4ヵ国の大統領はチリ北部で会談し、域内の経済統合を進める「太平洋同盟」創設の合意文書に署名した。自由貿易の枠組みを広げ、太平洋に面している利点を生かしてアジア太平洋地域との貿易拡大を目指す。
6・12	キューバ	米財務省は、米国の対キューバ経済制裁法などに違反して金融取引を行ったとして、オランダのING銀行に約490億円の罰金を科したと発表した。
6・14	ブラジル	政府は、企業が海外から資金を借り入れる際にかかる金融取引税(IOF)の課税期間を短縮し、従来の5年から2年未満へ短縮すると発表した。海外からの資金流入のハードルを下げ、通貨レアルの相場を下支えする。
6・15	アルゼンチン	外貨不足から、国民による米ドル購入を制限している同国で、フェルナンデス大統領や多くの閣僚に多額のドル建て預金があることがわかり批判を浴びていると報じられた。大統領は、近日中にペソ建てに替えると表明した。
6・18	メキシコ	TPP交渉にメキシコが加わる事が決まった。米国をはじめとする交渉9ヵ国から参加の同意を取り付けた。
6・21	ブラジル	ルセフ(Dilma Rousseff)大統領は中国の温家宝首相と国連持続可能な開発会議(リオ+20)の会場で会談し、自国通貨をお互いに融通しあう通貨スワップ(交換)協定に合意した。
6・22	ブラジル	リオデジャネイロで20日から開かれていたリオ+20が閉幕した。参加国やNGOからは、目立った成果を上げられないままだったと厳しい評価が出た。
6・22	ブラジル チリ	チリ大手LAN航空とブラジル最大手のTAM航空が、経営統合して新グループ「LATAM」を発足したと発表した。
6・25	コロンビア	韓国とコロンビアとの自由貿易協定(FTA)交渉が妥結した。2013年前半の発行を目指す。

7・1	メキシコ	大統領選の投開票があり、野党・制度的革命党(PRI)のエンリケ・ペニャ＝ニエト(Enrique Peña Nieto)前メキシコ州知事(45)の当選が確実となった。2000年まで71年間メキシコ政治を支配したPRIが12年ぶりに政権を奪還した。
7・4	ブラジル	サッカーの南米クラブ王者を決めるリベルタドーレス杯の決勝戦が同国サンパウロで行われ、地元のコリンチャンスがアルゼンチンのボカ・ジュニアーズに2-1で勝利し初優勝を決めた。
7・5	アルゼンチン	最高裁は、軍事政権(1976年～83年)が弾圧していた左翼活動家らの乳児を奪い、軍人らの養子にしていた事件に関与していたとして、元大統領ホルヘ・ラファエル・ビデラ(Jorge Rafael Videla)に禁固50年、同レイナルド・ビニョーネ(Reynaldo Bignone)被告に禁固15年の有罪判決をそれぞれ言い渡した。
7・6	ウルグアイ	政府が株式の25%を保有するプルナ航空が経営破たんした。資金不足のために全便の運航を停止している。
7・6	メキシコ	選管当局は、1日投開票された大統領選で一部票の再集計を含む最終結果を発表した。PRIのエンリケ・ペニャ＝ニエト氏の得票率は38.2%で優位は変わらなかった。連邦選挙裁判所が選挙を無効としない限り、同氏の勝利が確定する。
7・15	パラグアイ	6月22日に中道左派のルゴ(Fernando Lugo)大統領が弾劾裁判で罷免されたが、その拙速な手続きを「クーデター」と批判する中南米諸国が新政権を認めないと表明するなど混乱が続いているとの報道があった。
8・2	ブラジル	7月30日にロンドン五輪女子柔道57キロ級に出場した同国のラファエラ・シルバ(Rafaela Silva)選手が2回戦で敗退した後、同選手を中傷する人種主義的なコメントがツイッターに多数書き込まれたと報じられた。同国の五輪委員会は7月31日にそれらの差別発言の投稿者に対する法的措置を検討するとの声明を発表した。
8・6	南米	ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイの4国でつくる南米南部共同市場(MERCOSUR)へのベネズエラの加盟が正式に決まった。
8・10	ジャマイカ	ロンドン五輪の陸上男子200メートルでウサイン・ボルト(Usain Bolt)選手が金メダルを獲得し、五輪史上初めて2大会続けて100メートルと200メートルの2冠を達成した。
8・12	メキシコ	ロンドンで開催中のオリンピックでサッカーの決勝戦が行われ、メキシコが優勝候補筆頭のブラジルを2-1で破り、10度目の五輪出場で初優勝を飾った。
8・13	ブラジル	2016年の夏季五輪が開催される同国リオデジャネイロのエドゥアルド・パエス(Eduardo Paes)市長がロンドン五輪閉会式で引き継いだ五輪旗とともに帰国した。同日、ブラジル中央銀行は五輪開催を祝う記念硬貨を発行した。
8・16	エクアドル	政府は、内部告発サイト「ウィキリークス」創設者でオーストラリア国籍のジュリアン・アサンジ(Julian Assange)容疑者の同国への政治亡命を認める決定を下した。

8・16	ブラジル	1867年からブラジルに進出している独電機大手シーメンスが、2017年までに10億ドル(780億円)を投じてエネルギー関連事業などを拡充すると報じられた。今回はエネルギーと医療機器の分野に重点的に投資を行う。
8・25	ベネズエラ	西北部パラグアナにある同国最大のアムアイ製油所で爆発事故による火災が発生した。国営テレビによると28日に鎮火したが、27日までに死者は48人に達した。
8・27	コロンビア	サントス(Juan Manuel Santos)大統領は、左翼ゲリラFARCと和平に向けた予備交渉を行ったことを明らかにした。地元報道によると、本格交渉は10月5日にノルウェーの首都オスロで始まり、キューバの首都ハバナで継続される見通し。
9・5	コスタリカ	米地質調査所(USGS)によると、現地時間の午前8時42分にマグニチュード7.6の地震があった。震源は北西部オハンチャの北東約10キロメートルの内陸部。ロイター通信は、2人の死亡が確認されたと伝えた。
9・18	コロンビア	サントス大統領は、同国の麻薬組織で「最後の大物」と言われたダニエル・バレラ(Daniel Barrera)容疑者の身柄を、ベネズエラ西部のサンクリストバルで拘束したと発表した。
10・2	ブラジル	フランスの大手メーカーが同国でインフラ設備や消費財などの販売や生産を拡大しているとの報道があった。重電・輸送機器大手のアルストムは風力発電用タービンを受注し、タイヤ大手のミシュランは新工場を稼働させた。
10・7	ベネズエラ	大統領選が投開票され、現職のチャベス氏が主要野党統一候補でミランダ州知事のエンリケ・カプリレス(Henrique Capriles)氏らを接戦の末に破り、4回目の当選を果たした。
10・9	メキシコ	麻薬組織の抗争が続く同国の治安当局が、麻薬組織「セタス」の最高幹部を殺害したと発表していたが、その後、武装集団に遺体安置所へと押し入れられ遺体を強奪されたと発表。本当に殺害したのかを疑問視する声もある。
10・11	ブラジル	ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカの新興5ヵ国(BRICS)が東京都内で財務相会合を開いた。BRICS版の世界銀行と位置付ける「BRICS基金(仮称)」について討議が行われた。
10・12	ブラジル	米ゼネラル・エレクトリック(GE)がペトロブラスから11億ドル(約860億円)の海底油田設備を受注した。
10・16	キューバ	政府は、国民が海外に出る際に義務付けていた出国許可の事前取得手続きを廃止すると発表した。海外渡航の原則自由化で、2013年1月14日から実施する。
10・17	コロンビア	政府と左翼ゲリラFARCによる和平交渉がノルウェーのオスロで始まった。交渉はノルウェーの後、キューバのハバナで継続される。
10・23	ブラジル	欧州自動車大手の独BMWがブラジルで乗用車生産に乗り出すと発表した。同社としては南米初の乗用車工場建設となる。

10・24	ブラジル	政府は、景気刺激策の一環として導入している自動車購入時の減税を年末まで再延長すると発表した。約3ヵ月限定で5月に導入されたが、その後10月まで延長されていた。
10・31	アルゼンチン	16歳から選挙権を行使できる法案が下院で可決された。すでに上院は通過しており、2013年から導入される。政権の支持率が下がるなか、政権支持者が多いとされる若者を取り込む狙いがある。
11・2	キューバ	国営メディアは、近海で実施していた海底油田の試掘で、商業生産が可能な石油資源は見つからなかったと伝えた。政府は石油資源の探査を続けるとしているが、ロイター通信などによると、試掘に使われてきた大型掘削施設はいったん同国を離れる見通し。
11・4	メキシコ	主要20ヵ国・地域(G20)財務相・中央銀行会合がメキシコ市で始まった。急速に冷え込みつつある世界経済の打開策が中心のテーマになる予定だが、米大統領選などを控えて要人の欠席が目立つと報じられた。
11・6	プエルトリコ	米自治領のプエルトリコが実施した、米国「51番目の州」への昇格を問う住民投票は賛成が過半数を占めた。ただ、同日の知事選では現状維持を主張する候補が当選しており、民意に「ねじれ」が生じた。
11・7	グアテマラ	米地質調査所(USGS)によると、西部沖で現地時間の午前10時35分にマグニチュード7.4の地震があった。AP通信などによると、少なくとも48人が死亡した。
11・8	アルゼンチン	首都ブエノスアイレスをはじめとする国内100ヵ所以上で、現政権に対する大規模な抗議デモが行われた。高いインフレ率や治安の悪化、汚職、外貨両替を規制する政策が背景にあるとみられている。
11・8	エクアドル	世界最大のバナナ輸出国である同国内で、バナナが値上がりしている。現地価格は前年と比べ5割高い。病害の影響で生産が減る一方、ロシアなどが積極的に買い付けており、需給が引き締まっている。
11・13	キューバ	国連総会本会議(2011年現在193ヵ国加盟)は、米国がキューバの民主化を促すとして課している同国への経済制裁をやめるよう求める決議案を、キューバ、日本、英国など188ヵ国の賛成で採択した。採択は21年連続。米国のほか、イスラエル、パラオが反対、ミクロネシアとマーシャル諸島が棄権した。
11・24	コロンビア	ローマ法王ベネディクト16世は、バチカンで新しい枢機卿6人の叙任式を開いた。新たに枢機卿となったのはいずれも欧州以外の出身で、コロンビアのほか、米国、レバノン、インド、ナイジェリア、フィリピンの聖職者。
11・28	アルゼンチン	欧州系格付け会社フィッチ・レーティングスは、アルゼンチン国債の外貨建て長期信用格付けをデフォルトの可能性が高い「ダブルC」に5段階格下げした。
11・28	ブラジル	中央銀行が開いた通貨政策委員会で、政策金利である基準金利が7.25%で据え置かれた。前年8月から10回連続で引き下げていたが、物価上昇への懸念が強まっていることを背景に今回は見送った。

12・5	グアテマラ ベリーズ	グアテマラの警察当局は、米コンピューター安全対策大手マカフィーの創業者であるジョン・マカフィー(John McAfee)容疑者を不法入国容疑で逮捕した。隣国ベリーズで米国人男性が11月に射殺体で見つかった事件の参考人としてベリーズの警察が行方を追っていた。
12・5	ブラジル	建築家オスカー・ニーマイヤー(Oscar Niemeyer)氏が死去した。享年104歳。ニューヨークの国連本部ビルのほか、世界遺産に登録された首都ブラジリアの国会議事堂や大聖堂など、曲線を多用した独特な建築物で知られる。
12・10	ベネズエラ	10月に4選を果たしたチャベス大統領が緊急手術のためキューバに渡った。がんの再発と見られる。渡航の前にニコラス・マドゥロ(Nicolás Maduro)副大統領を後継者に指名する異例の発言をした。
12・14	アルゼンチン メキシコ	アルゼンチン政府は、メキシコと自動車貿易に関する新たな協定を締結したと発表した。メキシコからの無税での輸入額は今後3年間、2011年の輸入額より約3割少ない水準とする。
12・17	ブラジル	サッカーのトヨタ・クラブ・ワールドカップ決勝戦が横浜国際総合競技場で行われ、南米代表のコリンチャンス(ブラジル)が1-0で欧州代表のチェルシー(イングランド)を下し、第1回大会以来2度目の優勝を果たした。
12・19	アルゼンチン	首都ブエノスアイレスの大統領府周辺で賃金引き上げなどを要求するデモが行われた。労働組合が呼びかけ、数千人が参加した。
12・19	ブラジル	政府は、自動車購入時にかかる工業品税の減免策を翌年6月まで伸ばすと発表した。国内景気の低迷が長引いているため、3回目の延長を決めた。
12・20	エクアドル	世界遺産に登録されているガラパゴス諸島で、太陽光や風力などの再生可能エネルギーだけで稼働する空港ターミナルが運用を開始した。地元メディアが伝えた。
12・20	メキシコ	メキシコの飲料大手コカ・コーラFEMSA(KOF)がフィリピンの市場に参入すると報じられた。現地法人コカ・コーラ・ボトラーズ・フィリピン(CCBPI)の株式51%を米コカ・コーラから取得することで合意した。
12・21	メキシコ	マヤ文明の暦で1つのサイクルが終わるとされたこの日、ユカタン半島や周辺地域では「新しい時代」の始まりを祝う先住民らの儀式が行われ、多くの観光客も集まった。

参考資料

- (1)聞蔵IIビジュアル
- (2)日経テレコン21
- (3)毎索
- (4)読売新聞(2012年)
- (5)(社)ラテン・アメリカ協会ニュースアーカイブ
- (6)Archive for *Latin American Weekly Report*

ラテンアメリカ日誌－２０１３年－

月 日	国名	記事
1・3	アルゼンチン	フェルナンデス(Cristina Fernández de Kirchner)大統領が、ガーディアンなどのイギリス主要紙にマルビーナス諸島の返還を求める異例の意見広告を出した。広告は、キャメロン(David Cameron)首相に宛てた形式を取っている。
1・7	アルゼンチン	国際サッカー連盟(FIFA)が選ぶ2012年男子最優秀選手「FIFAバロンドール」に、アルゼンチン代表FWのメッシ(Lionel Messi)が輝いた。4年連続の受賞で、4度目の受賞は史上初。
1・8	ベネズエラ	10日に予定されていたチャベス(Hugo Chávez)大統領の4期目の就任宣誓式が延期されることとなった。マドゥロ(Nicolás Maduro)副大統領の声明を読み上げる形で国会議長が明らかにした。チャベス氏は2012年10月の大統領選挙で当選したが、その後がんの再発がわかり、12月にキューバで手術を受けた。
1・10	ブラジル チリ	リオデジャネイロにある観光名所の1つ、色鮮やかなタイル張りの「セラロンの階段」を造ったチリ出身の芸術家、ホルヘ・セラロン(Jorge Selarón)氏が階段脇の自宅前で死亡しているのが見つかった。
1・27	ブラジル	南部サンタマリアのナイトクラブで火災が発生し、245人が死亡、48人が重傷を負った。地元消防署によると、バンド演奏のショーで花火を使用中に発生した。煙を吸って死亡した人のほか、来場者が一斉に出口に殺到したことで踏みつけられ窒息したとみられる犠牲者も多数いる。
1・29	キューバ	37年ぶりに移民法が改正された。これまで帰国が許されなかった亡命キューバ人について、出国から8年が経過すれば帰国を認めるなどと明記。
1・31	メキシコ	国営石油会社ペメックスのメキシコ市にある本社ビルで爆発があった。原因は不明。同社は、2月2日までに32人が死亡、100人以上が負傷したと発表した。
2・1	アルゼンチン	アルゼンチン政府による経済統計の操作疑惑をめぐり、国際通貨基金(IMF)理事会が「改善策が十分ではない」と批判する声明を発表した。9月29日までに是正策を講じるよう要求した。
2・2	パラグアイ	4月に行われる大統領選に野党の倫理市民連合党から立候補していたリノ・オビエド(Lino Oviedo)氏を乗せたヘリコプターが同国北部で墜落した。3日までに操縦士、ボディーガードと合わせて3人全員の死亡が確認された。
2・4	キューバ	国会にあたる人民権力全国会議の総選挙が3日に実施され、4日に全員の当選が発表された。議員定数と同じ612人が立候補していた。当選した議員の中でキューバ革命に参加したのは22人。革命後に生まれた世代が約8割となった。

2・6	アルゼンチン	アルゼンチンの株式市場が急反発していると報じられた。過去の債務返済に関するアルゼンチン政府と米ファンドとの法廷闘争が一時休戦となり、同国が債務不履行に陥るとの懸念がひとまず後退したためである。
2・8	ブラジル	「リオのカーニバル」が始まった。この日から12日までの期間中の市統治権を「カーニバルの王様」役の男性に移譲する儀式も行われた。
2・13	ブラジル	知財管理当局は、米アップルが世界で販売するスマートフォンのiPhoneについて、同国における商標権の申請を却下した。先に登録していた地元メーカーの保有を認めた。
2・15	ベネズエラ	政府は、手術以来初めてチャベス大統領の写真を公開した。会見した同国のビジェガス(Ernesto Villegas)通信情報相は、容態は万全ではないがコントロールできていることを説明した。
2・17	エクアドル	大統領選が投開票され、3選を目指す現職のラファエル・コレア(Rafael Correa)氏が同日夜に勝利宣言した。選挙には8人が立候補していた。任期は4年。
2・18	ベネズエラ	チャベス大統領が、手術を受けその後療養していたキューバから帰国した。ベネズエラで治療を続けるとしており、本格的な職務復帰の見通しは立っていない。
2・18	ボリビア	モラレス(Evo Morales)大統領が、同国内で空港運営を手掛けるスペイン系企業を国有化したと発表した。対象は、スペインのインフラ企業アベルティス傘下にあるボリビア空港サービス(SABSA)社。
2・21	キューバ	ラウル・カストロ(Raúl Castro)国家評議会議長が、ロシアのメドベージェフ(Dmitrii Anatolievich Medvedev)首相と首都ハバナで会談した。投資や貿易、観光、教育などの分野で協定を締結したと地元メディアが報じた。
2・24	キューバ	人民権力全国会議は、国家元首である国家評議会議長にラウル・カストロ氏を再任した。任期は2018年までの5年間。政府ナンバー2の第1副議長には若手のミゲル・ディアス＝カネル(Miguel Díaz-Canel)氏が選ばれた。
2・28	アルゼンチン	米連邦地裁が2001年の債務不履行(デフォルト)で債務再編に応じなかった債権者へ13億ドル(約1200億円)を支払うよう命じた判決に対し、アルゼンチン側弁護士が支払いを拒否する意向を示したと報じられた。
3・1	ブラジル	地理統計院が2012年の国内総生産の伸び率が前年比0.9%だったと発表した。4.5%としていた年初の政府の見通しを大幅に下回った。
3・1	ペルー	ペルーと欧州連合(EU)間の自由貿易協定(FTA)が発効した。
3・5	ベネズエラ	チャベス大統領が首都カラカスの病院で死去した。58歳。マドゥロ副大統領が国民向けのテレビ放送で伝えた。
3・8	ベネズエラ	チャベス大統領の国葬が首都カラカスの陸軍士官学校で営まれた。中南米・カリブ地域を中心に各国の首脳クラスが約50人参列した。

3・11	アルゼンチン	アルゼンチン沖の英領フォークランド(マルビーナス)諸島で行われた英領帰属の賛否を問う住民投票で賛成票が99.8%に達し、現状維持が圧倒的多数で支持された。アルゼンチンは投票そのものを認めない考えを表明している。
3・13	アルゼンチン	ローマ法王庁は、アルゼンチン人でブエノスアイレス大司教のホルヘ・マリオ・ベルゴリオ(Jorge Mario Bergoglio)枢機卿を266代目の新法王に選出した。法王名は「フランシスコ」を名乗る。初の米州出身・イエズス会出身の法王となる。
3・21	ドミニカ共和国 プエルトリコ	米サンフランシスコで行われた第3回ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)の決勝でドミニカ共和国がプエルトリコに勝利し、初優勝を飾った。初の全勝優勝。
3・29	ブラジル	南部クリチバの民間病院で、女性医師らが患者300人余りを殺害した疑惑が報じられた。ベッドを空けることが目的だったとみられ、組織的犯行の可能性も視野に検察当局が捜査を進めている。
4・3	アルゼンチン	首都ブエノスアイレス市やその近郊で2日から3日にかけて激しい雨が降り、人が流されるなどして50人以上が死亡した。最も深刻な被害に見舞われたのは、首都から東に約60kmのラプラタ市。広範囲で停電が続き、2000人以上が避難している。
4・3	ベネズエラ	カリブ海に浮かぶベネズエラ領マルガリータ島の刑務所で、受刑者たちがデイスコを「開業」、友人らを招いて大騒ぎをしていたことがわかったと地元紙ユニベルサルなどが報じた。
4・8	チリ	1973年9月におきた軍事クーデターの12日後に病死したとされていたノーベル文学賞の詩人パブロ・ネルーダ(Pablo Neruda)の遺体が死因究明のため、中部イスラネグラの墓地から掘り起こされた。軍事政権による毒殺の可能性があるために真相解明を図る。
4・14	ベネズエラ	チャベス大統領の死去に伴う大統領選挙が投開票され、野党のカプリレス(Henrique Capriles)氏との接戦を制したマドゥロ大統領代行が初当選した。
4・16	ベネズエラ	マドゥロ氏が勝利した大統領選を巡り、野党支持者が反発して治安部隊と衝突している。地元の報道によると首都カラカスなどで計7人が死亡している。22日には選挙管理局が票の点検に乗り出すことになった。
4・17	ブラジル	ブラジル中央銀行は、通貨政策委員会で過去最低の水準だった政策金利を0.25%幅引き上げて、年7.5%とすると決めた。利上げは2011年7月の会合以来、およそ1年9ヵ月ぶり。
4・21	パラグアイ	保守の野党コロラド党から出馬した実業家のオラシオ・カルテス(Horacio Cartes)氏が、連立与党リベラル党のペドロ・アレグレ(Pedro Efraín Alegre)氏を抑え、初当選した。同党の政権返り咲きは5年ぶり。
4・29	コロンビア ニカラグア	両国が領海などを巡り対立していることが報じられた。国際司法裁判所(ICJ)が昨年11月に出したニカラグアに有利な判決に不満を強めたコロンビアは、ICJの管轄権を定めた条約からの脱退を表明。

5・7	ブラジル	世界貿易期間(WTO)は、ブラジルのロベルト・アゼベド(Roberto Azevêdo)WTO担当大使を次期事務局長に選出した。前身の関税貿易一般協定(GATT)時代を含めて初めてトップに中南米出身者が就任する。
5・14	メキシコ	ドイツの自動車大手アウディは、北米初の生産拠点となる工場の建設に着手したと発表した。場所は、中部プエブラ州のサンホセチアパ。当初2年の投資額は9億ユーロ(約1190億円)以上を予定し、2016年半ばに生産を始める。
5・17	アルゼンチン	ホルヘ・ビデラ(Jorge Videla)元大統領(87)がブエノスアイレス市の刑務所で老衰のため死亡した。任期中、テロ対策を名目に左翼グループや労働組合の活動家、その家族らを令状なしに逮捕、連行し、多数を殺害した。
5・22	ベネズエラ	米ギャラップ社が市民の体感治安を調査したところ、世界で最も危険を感じる国はベネズエラであるとの結果が明らかになった。
5・24	グアテマラ	政府は、国庫などから横領した約7000万ドル(約70億円)を米国で資金洗浄したとして、米司法当局から起訴されているポルティジョ(Alfonso Portillo)元大統領の身柄を米国に引き渡した。
5・27	チリ	チリ北部コピアポ近郊のサンホセ鉱山で2011年に起きた事故で「奇跡の生還」を果たした作業員のうちリーダー役だったルイス・ウルスア(Luis Urzúa)さんが「アタカマ33財団」を設立したことが報じられた。事故の教訓を語り継ぎ、鉱山で働く作業員の安全確保や労働環境の改善を図ることが目的。
5・29	ブラジル	ブラジル中央銀行は、通貨政策委員会で政策金利を0.5%幅引き上げ、年8.0%にすると発表した。景気は低迷しているものの、食料品など物価が上昇しているためインフレ抑制を優先せざるを得ない状況にある。
5・31	トリニダード・トバゴ コスタリカ メキシコ	中国の習近平国家主席が、米国とそれに先立つトリニダード・トバゴ、コスタリカ、メキシコ訪問に出発した。トリニダード・トバゴではカリブ海諸国9か国の首脳と会談し、農業や教育分野などでの支援を表明。コスタリカでは、高速道路整備を支援するために3億9700万ドル(約400億円)の融資を行うことに合意した。
6・6	ブラジル	サンパウロ中心部にある企業のオフィスが集積するパウリスタ大通りで大規模なデモが発生した。きっかけは公共交通機関の運賃引き上げ。学生2000人以上が参加し、一部は暴徒化。出動した警官隊はゴム弾や催涙弾を使用した。少なくとも15人が拘束された。
6・13	ブラジル チリ	化学世界最大手のドイツ企業BASFが南米で農薬関連事業を拡大すると報じられた。ブラジルでは5000万ユーロ(約65億円)以上を投じて、殺菌剤などの生産能力を増強。8月にはチリの新工場も稼働する予定。
6・20	ブラジル	サッカー・ワールドカップへの巨額投資などに抗議するデモが急速に拡大した。70以上の都市で計100万人が参加。一部の参加者が警察と衝突し、全国で約70人以上が負傷した。
6・21	ブラジル	国内各地でデモが頻発している問題で、ルセフ(Dilma Rousseff)大統領はテレビやラジオを通じて国民向けのメッセージを放送した。デモを「民主的な力」として評価した一方で、「平和的な方法でやるべきだ」と述べた。そのうえで、教育や医療の充実を約束した。

6・26	アルゼンチン	株式相場が下値模索を続けていると報じられた。年初から順調に上昇してきたものの、政府が5月に打ち出した政策をきっかけに状況は一変。特定の国内開発案件へ投資すれば海外にある未申告の資産への課税を軽減するとの内容だったが、資本移動規制の強化を目指す政府の意図をかぎ取った市場は売りに反応した。
6・30	ブラジル	リオデジャネイロのマラカナン競技場でサッカーのコンフェデレーションズカップ決勝戦が行われ、ブラジルがスペインを3-0で破り3連覇を果たした。競技場近くでは約5000人が抗議活動を行い、警官隊と衝突する場面もあった。
7・1	ブラジル	トラック運転手の労働組合(MUBC)が、午前から72時間の時限ストライキに入った。高速道路の利用料免除、ディーゼル燃料への補助金を求めている。
7・11	パラグアイ	南米南部市場(メルコスル)加盟国は、ウルグアイの首都モンテビデオで外相会合を開き、政情不安により加盟資格を停止していたパラグアイについて、8月15日のカルテス新大統領就任に合わせて復帰を認めることで合意した。
7・11	ブラジル	ブラジル中央統一労働組合(CUT)などが主導するストライキが実施された。組合員はサンパウロなど11州で道路を占拠し、労働時間の短縮や保険制度の充実を求めた。サンパウロ郊外では、米ゼネラル・モーターズなどの工場やサントスの港湾施設の操業が停止した。
7・16	アルゼンチン	国営石油YPFと米石油大手シェブロンが、アルゼンチン西部ネウケン州でシェールガスとシェールオイルの開発契約に調印した。春には同じ地区の別の鉱区でダウ・ケミカルもシェール開発に向けた合弁設立でYPFと仮合意した。
7・16	キューバ パナマ	キューバから北朝鮮に向かう途中、パナマで拿捕された北朝鮮の船が積んでいた「軍事物資」について、キューバ外務省は、旧ソ連製の旧式の武器で北朝鮮で修理するため運搬中だったとする声明を発表した。
7・22	ブラジル	フランシスコ法王が就任後初めてイタリアを離れる外国訪問でブラジルに到着し、市民から熱烈な歓迎を受けた。空港からの移動には庶民的なミニバンを利用し、駆け寄る市民への握手にも応じた。カトリックの若者の祭典「世界青年の日」などに出席する。
8・2	アルゼンチン	サッカーのアルゼンチンリーグは2日の開幕から2週間、ホームチームのクラブ登録会員以外の観戦を禁止した。観戦に伴う暴力行為を止めるための措置。7月にはボカジュニアズのサポーター同士の銃撃戦があり、2人が死亡した。
8・6	メキシコ	麻薬組織の暗躍について報道された。7月15日には麻薬組織セタスのリーダーであるミゲル・トレビニョ(Miguel Treviño)容疑者が逮捕されたが、他にも大規模な麻薬組織が存在するため、治安回復には結びついていない。
8・9	ブラジル	サンパウロ州検察は地下鉄工事などの入札で談合が繰り返されていた疑いがあるとして捜査を始めた。地元メディアは、三井物産やドイツの電機大手シーメンスなど多数の外国企業が談合に参加したと伝えている。
8・11	キューバ	2013年6月に一般国民がインターネットを利用できる「接続センター」が国内各地に新設されたことが報道された。

8・11	ジャマイカ	モスクワで開催された陸上の世界選手権、男子100メートル決勝でウサイン・ボルト(Usain Bolt)が2大会ぶり2度目の優勝を果たした。
8・11	パラグアイ	台湾の馬英九総統が、カルテス新大統領の就任式などのため空路、台湾を出発した。パラグアイのほか、ハイチ、セントルシア、セントビンセント・グレナディーン諸島、セントクリストファー・ネイヴィスの5カ国を訪れる。
8・12	ペルー	政府は、左翼ゲリラ「センデロ・ルミノソ」の掃討作戦で残る4人のリーダー格のうち2人とみられる人物を殺害したことを明らかにした。
8・15	エクアドル	コリア大統領は、ヤスニ計画を撤回し開発に着手すると表明した。ヤスニ基金に寄せられたのは目標の0.37%に留まり、計画は失敗に終わった。
8・16	コロンビア	世界陸上の女子三段跳びで、イバルグエン(Caterine Ibargüen)が今季世界最高に並ぶ記録で優勝した。コロンビアにとって世界選手権初の金メダルである。
8・23	ブラジル	ブラジル中央銀行が、年末にかけて600億ドル(約5兆9400億円)規模の為替市場介入策に乗り出すと発表し、介入を始めた。対ドルで約4年8ヵ月ぶりの安値圏にあるレアルを防衛し、輸入物価の上昇によるインフレ加速を抑えたい考え。
8・26	ボリビア ブラジル	大統領府は、パトリオタ(Antonio Patriota)外相の引責辞任を発表し、後任に外交官出身のルイス・フィゲイレド(Luiz Figueiredo)氏を指名した。ブラジル人外交官が、24日に隣国ボリビアで実刑判決を受けた同国の野党国会議員を両政府の許可なく陸路入国させたことにボリビア側が反発していた。
8・28	アルゼンチン	フェルナンデス大統領は、2001年の債務不履行を巡る新たな債務交換計画を議会に示した。債務の支払い地をアルゼンチンなど米国以外の場所に変更することを債務者に提案する。
8・30	ブラジル	ブラジル地理統計院(IBGE)は、2013年4～6月期の実質経済成長率が前年同期比で3.3%だったと発表した。11年4～6月期以来の高水準となった。ただし、物価上昇率は高止まりし、製造業の在庫もたまっているため先行きには不安を抱える。
9・2	ペルー	8月末から続く厳しい寒波の影響で1人が死亡、5000人以上が被災していることが報じられた。アルパカやリヤマなどの家畜も約2万7000匹が死ぬなど農牧業にも影響が出ている。政府は緊急事態宣言を発令した。
9・11	チリ	1973年に故ピノチェト(Augusto Pinochet)元大統領による軍事クーデターでアジェンデ(Salvador Allende)社会主義政権が崩壊してから40年を迎え、首都サンティアゴの大統領府など各地で式典が行われた。ピニェラ(Sebastián Piñera)大統領は式典で依然根強い左派と右派の対立解消を呼びかけた。
9・16	メキシコ	2つの熱帯低気圧が接近したためにメキシコ各地で14日から集中豪雨が続けている。洪水や地滑りが相次ぎ、少なくとも41人が死亡した。
9・17	ブラジル	大統領府は、10月23日から予定していたルセフ大統領の訪米を取りやめると発表した。米国家安全保障局(NSA)が大統領の電子メールや通話を傍受していたことが発覚した問題での抗議。

9・17	ブラジル	独フォルクスワーゲン(VW)傘下の独アウディが、2015年からブラジルで生産を始めると発表した。総額約1億5000万ユーロを投じ、南部パラナ州のVW工場内に新たに生産ラインを設ける。
9・24	ブラジル	ルセフ大統領は、国連総会一般討論演説で、米国家安全保障局(NSA)による個人情報収集は「国際法に違反し、道義に対する侮辱だ」と厳しく批判。表現の自由などを保障する「多国間のメカニズム」を立ち上げる必要があると述べた。
9・27	ペルー	国際サッカー連盟の規律委員会が、ペルーの連盟に対し無観客試合を義務付けた上で罰金を科すと通告した。9月6日のW杯南米予選のウルグアイ戦でファンに不適切な行為があったと認定されたため。
9・29	キューバ	キューバのスポーツ選手が、2014年1月から国外でプロ契約できる見通しになった。契約は国の機関を通じて行われるため、契約金の一部が国の収入になるとみられる。
10・2	ブラジル	ブラジルの携帯電話4位のオイとポルトガルの通信大手ポルトガル・テレコム(PT)が合併することで合意したと発表した。両者は株式交換による「Corp CO」を設立し、リオデジャネイロに拠点を置く。
10・4	アルゼンチン	保守主義的な経済運営や政府が発表する経済統計への不信感が通貨の信認低下につながり、通貨安・高インフレに見舞われていると報じられた。資産価値の目減りを防ぐため、国民は自動車や不動産といった「現物」の購入を拡大させている。
10・8	アルゼンチン	フェルナンデス大統領が首都ブエノスアイレス市の病院で脳内出血の手術を受けた。手術は成功した。
10・9	ハイチ	コレラ感染による死者の遺族らが、同国に展開する国連平和維持活動(PKO)が感染源だとして、国連に補償金など計22億ドル(約2412億円)の支払いを求める訴えを、ニューヨークの連邦地方裁判所に起こした。
10・9	ブラジル	ブラジル中央銀行が、政策金利の基準金利を0.5%引き上げて年9.5%にすると発表した。利上げは5会合連続で、4月以降の引き上げ幅合計は2.25%となった。
10・10	ベネズエラ	ロシアとマレーシアの石油大手が油田開発事業から手を引くなど、ベネズエラで外国企業が相次いで撤退を決めている。チャベス路線を引き継ぎ保守主義的な姿勢を維持する現状では事業拡大が展望しにくいとの判断。
10・16	アルゼンチン	個人消費を中心に国内経済が勢いを取り戻したほか、主要産品である穀物採算が順調に拡大し、株式市場が上昇基調を強めているとの報道があった。
10・16	ブラジル	レベロ(Aldo Rebelo)スポーツ相が2013年12月で辞任する意向を表明した。2014年10月に予定されるサンパウロ州知事選挙に立候補する見通し。
10・17	ペルー	フジモリ(Alberto Fujimori)元大統領が、首都リマで開かれた横領罪の公判に出廷した。公の場に姿を見せたのは、2009年の公判以来。

10・29	キューバ	193カ国が構成する国連総会で、米国がキューバに科している禁輸措置などの経済制裁の解除を求める決議案を、前年と同じ過去最多となる188カ国の圧倒的賛成多数で採択した。
10・29	ブラジル	通貨レアルの上昇が報じられた。17日には今年6月以来のレアル高・ドル安水準を記録し、その後も同じ水準で推移している。米国が量的緩和を当面継続するとの見方が強まったことに加え、ブラジル中央銀行がインフレ抑制のための利上げを継続する意向を占めていることが後押ししている。
11・8	チリ	ノーベル賞詩人パブロ・ネルーダの死因をめぐり、遺体を鑑定していた同国法務省は「死亡につながる化学物質は見つからなかった」との見解を発表した。
11・15	ペルー	中国の石油大手の中国石油天然気集団(CNPC)が、ブラジルの国営石油会社ペトロブラスと、同社がペルーに持つ権益会社を買収することで合意した。
11・23	キューバ	2012年キューバを訪れた米国人が過去最高になったと報じられた。キューバ政府によると、2013年の米国からの渡航者は9万8050人で前年比33.3%増。オバマ政権の規制緩和が進み、第3国経由での入国が増加している。
11・24	ブラジル	バレーボールの世界グランドチャンピオンズカップ男子大会が東京体育館で行われた。世界ランキング1位のブラジルが同3位のイタリアを破り、3大会連続4度目の優勝を飾った。
11・27	ブラジル	ブラジル中央銀行は、政策金利の基準金利を0.5%引き上げて年10%にすると発表した。利上げは6会合連続。金利が2ケタになるのは2012年3月以来、1年8ヵ月ぶり。高止まりする物価を抑え込むことを優先した判断。
11・27	ブラジル	ワールドカップ(W杯)ブラジル大会の開幕戦会場となる予定のサンパウロの競技場で、屋根の建設作業で骨組みをつり上げていた大型クレーンが倒れる事故があり、作業員2人が死亡した。W杯で使用する競技場建設中の死亡事故は昨年首都ブラジリア、3月のマナウスに続き3件目。
11・27	ホンジュラス	与野党の候補2人がそれぞれ勝利宣言をしていたホンジュラスの大統領選で、選挙管理委員会は与党の中道右派・国民党で国会議長を休職中のファン・エルナンデス(Juan Hernández)氏の当選を発表した。
11・27	メキシコ	中南米の携帯電話最大手、メキシコのアメリカ・モバイルが欧州への進出を急いでいることが報じられた。地盤の中南米で市場占有率が高くなっており、各国の寡占規定などに増える恐れが出ているためである。
12・4	ブラジル	レベロ・スポーツ相は、2014年ワールドカップ会場の12会場のうち一部が年内に完成しないことを明らかにした。国際サッカー連盟(FIFA)は年内を期限にしており、工事の遅れが問題になっていた。
12・6	メキシコ	メキシコ市郊外で医療用の放射性物質「コバルト60」を積んだトラックを奪ったとして、警察当局が6人を逮捕したことが現地メディアによって伝えられた。6人は被爆した可能性があり、中部イダルゴ州の病院で検査を受けている。

12・10	ウルグアイ	大麻の売買や栽培を合法化する法案が上院で可決され成立した。青少年の犯罪抑制や治安改善を主な目的に掲げる試み。世界で初めて一般市民による自家栽培も認める。
12・10	キューバ	南アフリカ共和国で開かれたマンデラ(Nelson Mandela)元大統領の追悼式で、オバマ(Barack Obama)米大統領とキューバのラウル・カストロ国家評議会議長が握手を交わした。
12・12	メキシコ	石油開発に外国企業の参入を認める憲法改正案が議会で賛成多数で承認された。1938年以来75年にわたって国営企業が独占してきたが、民間投資を受け入れることで石油生産の減少傾向に歯止めをかける狙いがある。
12・15	チリ	大統領選挙の決選投票があり、中道左派のミシェル・バACHELET(Michelle Bachelet)前大統領が当選した。4年ぶりに大統領に返り咲く。
12・20	ブラジル	独BMWは南米初の乗用車工場を南部サンタカタリーナ州で着工した。総投資額は2億ユーロ(約285億円)以上の見通し。ブラジルでは高級車市場の成長が期待されるうえ、同国の自動車輸入関税を避けるために現地生産を始める動きが広がる。
12・25	キューバ	従来は一流の音楽家やスポーツ選手など国への貢献が認められたごく一部のみに限定されてきた新車購入が自由化されることが報道された。販売は政府系企業を通じて行われ、収益で公共交通機関が整備される見込みだという。
12・26	ブラジル	AP通信によると、南東部で豪雨による洪水や地滑りが発生し、少なくとも39人が死亡した。地元当局は6万人以上が避難を余儀なくされていると説明している。

参考資料

- (1)聞蔵IIビジュアル
- (2)日経テレコン21
- (3)読売新聞(2013年)
- (4)(社)ラテン・アメリカ協会政治経済ニュース

ラテンアメリカ日誌－２０１４年－

月 日	国名	記事
1・3	ブラジル	ブラジル自動車販売店連盟がまとめた2013年の新車販売台数が376万7254台となり、12年を1%下回った。前年を下回るのは2003年以来。
1・23	アルゼンチン	ブエノスアイレス市場でペソが急落し、前日と比べて12%ペソ安・ドル高の1ドル=8ペソで取引を終えた。外貨準備の減少を背景に中央銀行のペソ安阻止の姿勢に懐疑的な見方が広がっていることがペソ売り材料となった。
1・27	アルゼンチン	アルゼンチン政府は、外国為替規制の緩和を実施したと発表した。月額2000ドルまでのドルの購入が可能になる。格差が大きい非公式取引レートと差を縮める狙いがあるとみられる。
1・27	チリ ペルー	国際司法裁判所は、ペルーとチリが太平洋上の領海や排他的経済水域の境界線をめぐって争っていた問題で、ペルー側の主張を一部認める判決を言い渡した。今回の判決が最終決定となる。
1・29	アルゼンチン	政府は、上昇傾向にある小売店の販売価格を抑えることで業界団体と合意したと発表した。通貨が対ドルで1割強下落した23日より前の21日の水準に戻すように要請している。
1・29	キューバ ベネズエラ	ハバナに、2013年3月に死去したベネズエラのウゴ・チャベス(Hugo Chávez)前大統領を紹介する写真などを展示する博物館が開館し、完成記念式典が行われた。
2・1	ベネズエラ	ギネス・ワールド・レコーズは、ベネズエラ西部マラカイボ湖が1平方キロメートル当たりの稲妻が世界で最も多い場所と認定した。1時間で最高3600回に上るといふ。
2・1	中南米 キューバ	キューバのフィデル・カストロ(Fidel Castro)前国家評議会議長が、同国で開催中の中南米カリブ海諸国共同体(CELAC)首脳会議(1月28-29日)に合わせて訪れたブラジルのルセフ(Dilma Rousseff)大統領、アルゼンチンのフェルナンデス(Cristina Fernández)大統領、ジャマイカのシンプソンミラー(Portia Simpson-Miller)首相、ウルグアイのムヒカ(José Mujica)大統領と相次いで会談した。
2・2	コスタリカ エルサルバドル	コスタリカとエルサルバドルで大統領選の投開票があった。両国いずれの候補も規定の得票率に届かない見通しで、決選投票に持ち越された。
2・5	パナマ	パナマは、運河の拡張工事などを請け負うスペインなど欧州の企業連合が工事を中断したと発表した。追加負担をめぐってパナマ政府と折り合わないためだといふ。

2・7	アルゼンチン	通貨ペソが上昇に転じた。ブエノスアイレス市場で1ドル=7.8425ペソで取引を終えた。中央銀行が市中銀行の外貨保有規制を強化し、保有可能な外貨を総資産の30%に制限したことで「外国為替市場でドルの売り圧力が強まる」との思惑が広がった。
2・21	ベネズエラ	物不足などに抗議するデモが各地で頻発し、死者が出る事態となっている。12日にカラカスでデモ隊と政府支持者が衝突し、双方で計3人が銃撃されて死亡、約70人が負傷したことが発端。18日には、デモを呼び掛けた野党指導者レオポルド・ロペス(Leopoldo López)氏が逮捕された。
2・22	メキシコ	麻薬組織シナロア・カルテルの最高幹部ホアキン・グスマン(Joaquín Guzmán)容疑者が、シナロア州のコンドミニアムで、米当局と共同作戦を進めていたメキシコの海兵隊によって拘束された。
2・24	ブラジル	欧州航空大手エールフランスKLMが、ブラジル航空大手GOL航空に資本参加することを決めた。
2・25	ベネズエラ	ボクシング元世界王者のアントニオ・セルメニョ(Antonio Cermeño)氏が誘拐され殺害された。地元警察が発表した。
2・27	アルゼンチン	アルゼンチン政府は、2012年に国有化した石油大手YPFを巡り、当時親会社だったスペイン石油大手レプソルに対して50億ドルを補償する契約を結んだ。
3・13	エルサルバドル	大統領選の決選投票について、副大統領で与党左派ファラブンド・マルティ民族解放戦線(FMLN)のサルバドル・サンチェス=セレン(Salvador Sánchez Cerén)氏が当選したことが発表された。
3・17	アルゼンチン	米格付け大手ムーディーズ・インベーターズ・サービスは、アルゼンチン国債の格付けを「シングルBマイナス」から「トリプルCプラス」へ1段階引き下げたと発表した。
3・24	ブラジル	米格付け会社スタンダード・アンド・プアーズ(S&P)が、ブラジルの外貨建て長期債の格付けを「トリプルB」から「トリプルBマイナス」に引き下げたと発表した。
4・1	チリ	チリ北部で午後8時26分ごろマグニチュード8.2の大きな地震があり、北部各地に津波が到着した。当局は、2日までに2人の死亡、3人が大けがをしたことを確認した。一部で土砂崩れが発生し、道路が寸断された。
4・1	ボリビア	中国の宇宙産業大手、中国長城工業(北京市)がボリビアに通信衛星を引き渡した。2010年に発注したもので、ボリビアにとって初の通信衛星となる。
4・6	コスタリカ	大統領選の決選投票があり、野党中道左派・市民行動党(PAC)の元外交官ルイス・ソリス(Luis Guillermo Solís)氏が当選した。2000年創設の同党として初めて大統領が誕生する。
4・8	アルゼンチン	アルゼンチンの商業貿易ミッションが中国の産業団体、遼寧省海洋産業商會を訪問し、17項目の協力文書に調印した。石油、ガス、鉱業、農業、畜産、サッカーなどの分野で連携を深めることを確認した。

4・8	ブラジル	中国の国家品質監督検査検疫総局が、ブラジル産トウモロコシの輸入を解禁すると発表した。輸入量90%以上を占める米国への依存を減らす狙い。
4・11	ブラジル	タイ石油公社傘下の資源開発会社PTTEPが、ブラジル沖の深海で石油探査を進めるための合弁会社を英BGグループのブラジル子会社と設立することで合意した。
4・12	チリ	チリ中部にある世界遺産の港湾都市バルパライソで大規模な山火事があり、13日までに少なくとも11人の死亡が確認された。約500棟の建物が焼け、1万人以上が避難した。
4・14	ペルー	中国国有資源大手の中国五礦集団が、ペルーのラスバンバス銅鉱山を58億5000万ドルで買収すると発表した。スイスの資源商社グレンコア・エクストラクタから買い取る。
4・15	アルゼンチン	アルゼンチン政府が年率3割ともされるインフレ対策を強化している。民間企業と合意して価格を一定の範囲内に抑える対象の商品群を108増やして302品目に拡大。
4・17	コロンビア	ノーベル文学賞を受賞したコロンビア人作家ガブリエル・ガルシア・マルケス(Gabriel García Márquez)氏がメキシコ市の自宅で死去した。
5・4	パナマ	リカルド・マルティネリ(Ricardo Martinelli)大統領の任期満了に伴う大統領選の投開票があり、副大統領で野党パナメニスタ党のファン・バレラ(Juan Barrera)氏が勝利した。同氏は酒造会社のオーナー。
5・12	ブラジル	シンガポールの政府系ファンド(SWF)はブラジルのスポーツ用品専門のインターネット通信販売大手ネットシューズに投資した。
5・12	ブラジル	米航空機大手ボーイングとブラジルの同業エンブラエルが、サンパウロ州にバイオ燃料の共同開発拠点を設置すると発表した。
5・15	ブラジル	6月12日に開幕するサッカー・ワールドカップ(W杯)ブラジル大会に反対するデモが最大都市サンパウロなど各地で行われた。
5・19	アルゼンチン	パタゴニア地方で、世界最大とみられる恐竜の化石が見つかったと地元の博物館がホームページで発表した。体長40メートル、体重は80トンと推測される。
5・25	コロンビア	サントス(Juan Manuel Santos)大統領の任期満了に伴う大統領選挙が投開票された。有効投票の過半数を獲得した候補者はなく、決選投票が行われることになった。
5・27	ブラジル	首都ブラジリアでデモ隊と警察が衝突した。警察はW杯スタジアムに近づくデモ隊に催涙弾を使用。デモ隊にいた先住民族のグループが騎馬警察隊に向けて矢を放つなどして反撃した。
5・27	中南米	米医薬・医療品大手のアボット・ラボラトリーズが、チリの業界大手CFRファーマシューティカルズを約29億ドルで買収することを決めた。中南米で後発薬事業を強化する。

5・29	アルゼンチン	パリクラブ事務局は、アルゼンチンが2001年のデフォルトを巡る97億ドルの債務を5年以内に返済することで債権国側と合意したと発表した。
5・29	ブラジル	ブラジル中央銀行が、政策金利の基準金利を年11%で維持すると発表した。2013年4月から9会合連続で引き上げてきたが、1年2ヵ月ぶりに据え置いた。インフレ圧力は根強いが、足元の景気低迷に配慮した。
6・8	ブラジル	サンパウロの地下鉄職員がストライキを続けている問題で、地元の労働裁判所は労働組合側に対し、スト終結を命令した。ただし労組側はその後のスト続行を決定した。
6・9	ブラジル	サンパウロのモノレール建設工事現場で、橋桁が落下する事故があり、巻き込まれた作業員1人が死亡、2人がけがをした。工事はW杯を見据えて始まったが間に合わないことが明らかになっている。
6・12	ブラジル	サンパウロでW杯開催に抗議するデモ隊約100人と武装警官が衝突し、警官隊は催涙弾を使用するなどして強制排除を行った。同日午後、W杯ブラジル大会が開幕した。
6・15	コロンビア	大統領選挙の決選投票があり、サントス氏が再選を果たした。同氏は有効投票数の50.95%を獲得。紛争への対策が争点だったが、サントス氏の再選で和平交渉が継続される。
6・15	ボリビア	サンタクルスで、途上国や中国で構成するサミット「G77プラス中国」が行われた。133ヵ国が集まり、サミットの創立50周年を祝うとともに、世界の課題に対する新たなアイデアも提言した。
6・16	アルゼンチン	米最高裁判所は、アルゼンチンが2001年のデフォルトを巡って債務削減に応じなかった一部の債権者に13億3000万ドルを支払うようアルゼンチンに命じる判断を示した。
6・17	アルゼンチン	米格付け会社(S&P)は、アルゼンチンの外貨建て長期信用格付けを2段階引き下げ、「トリプルCマイナス」にした。
6・26	アルゼンチン	財政危機のアルゼンチンが、英ファイナンシャル・タイムズなど世界の主要新聞に意見広告を出した。
6・27	アルゼンチン	アルゼンチン司法当局は、同国の紙幣を印刷する会社の経営権を秘密裏に取得し不正に利益を得た疑いがあるとして、現職のブドウ(Amado Boudou)副大統領を汚職などの疑いで訴追したことを明らかにした。
7・1	アルゼンチン	アルゼンチン政府は、6月30日に期限を迎えた同国国債の保有者に対する利払いを実行できなかった。米連邦地裁が求めた米ファンドへの優先的な債務返済に応じなかったため、利払い手続きを完了できなかった。国債への利払いは1ヵ月の支払い猶予期間に入る。
7・3	ブラジル	同国南東部ベロオリゾンテでW杯のために建設されていたバス専用レーン整備工場現場で建設中の高架橋が崩落した。マイクロバスなどが下敷きになり、少なくとも1人が死亡、22人が負傷した。

7・6	メキシコ	米カリフォルニア州とメキシコの国境で、両国の音楽家たちが鉄のフェンスを挟んで一緒に音楽を奏でた。国境越えて命を落とす多くの移民を悼むため、不法移民を支援する両国のNGOが企画した。
7・7	アルゼンチン	アルゼンチンのキシロフ(Axel Kicillof)経済財務省が米ニューヨークを訪問し、米連邦地裁が定めた調停者と初めて会談した。米ファンドとの和解交渉を進めるため、地裁が求めたファンドに対する支払い命令を停止するよう改めて訴えた。
7・9	メキシコ	ドイツの自動車メーカーBMWが、メキシコ初となる完成車工場を建設すると発表した。10億ドルを投じ、中部サンルイスポトシ州に年産能力15万台の工場を構え2019年から稼働する計画。
7・11	キューバ	ロシアのプーチン(Vladimir Putin)大統領がキューバを訪問した。ラウル・カストロ(Raúl Castro)国家評議会議長と会い、経済協力に合意。貨物用の新空港の建設や経済特区のマリエル港の近代化などを話し合った。フィデル・カストロ前議長とも会談した。
7・14	アルゼンチン	W杯の大会最優秀選手に、準優勝に終わったアルゼンチンのFWメッシ(Lionel Messi)が輝いた。優勝チーム以外の選手が選ばれるのは1998年フランス大会から5大会連続。
7・14	コロンビア	W杯で、8強で敗退したコロンビアのロドリゲス(James Rodríguez)が得点王となった。現行方式になったフランス大会以降では最小の試合数となる、準々決勝までの5試合で得点王を獲得した。
7・15	パナマ	マヌエル・ノリエガ(Manuel Noriega)元将軍が、米カリフォルニア州のゲーム会社を相手取り、損害賠償を求めて州内の裁判所に訴えた。人気の戦争ゲームの中で自身の名前が許可なく使われ、「誘拐犯」で「殺人者」などと描かれたため。
7・16	ブラジル	マレーシアのモノレール技術会社スコミ・エンジニアリングがブラジルのサンパウロで新たなモノレール路線を建設すると発表した。同社のブラジルのモノレール計画参画は3件目。
7・17	ブラジル	ルセフ大統領と中国の習近平国家主席が会談し、経済関係の強化で一致した。中国がエンブラエルの飛行機60機を購入することで合意。資源大手ヴァーレは中国の銀行から合計75億ドルの融資枠を得る。
7・18	アルゼンチン	中国の習近平国家主席は、ブエノスアイレスでフェルナンデス大統領と会談し、経済関係の強化で一致した。アルゼンチンが中国から水力発電用のダム建設費などの融資を受けることで合意した。
7・21	メキシコ	政府は、肥満対策として、テレビや映画館で高カロリーの食べ物や飲み物のコマーシャルを規制することを決めた。肥満が原因となる病気の死亡例が多く、医療コストの高騰を招いているため。
7・22	中南米 キューバ	中南米を歴訪中の中国の習近平国家主席は、最後の訪問国キューバで首脳らと会談した。中国は貿易拡大、経済特区の開発などを約束。開発協力や融資協定など29項目の合意文書に調印した。

7・25	アルゼンチン	国際サッカー連盟(FIFA)は、アルゼンチン代表の選手が6月7日にラプラタで行われたスロベニアとの親善試合で「マルビーナスはアルゼンチンだ」と書かれた横断幕を掲げたことについて、アルゼンチン協会に罰金と戒告処分を科したと発表した。
7・26	中米	中米から密かに米国に入国する大勢の子どもを支援するため、ロサンゼルス在住の若者8人が市内のユニオン駅前で21日から断食を続けている。8人は米政府に、子どもたちを「難民」として受け入れることを求めている。
7・28	アルゼンチン	アルゼンチン政府は、2001年のデフォルトに関連した公的債務についてパリアクラブに最初の支払いとなる6億4200万ドルの返済を完了したと発表した。
7・30	アルゼンチン	アルゼンチン政府が債務をめぐる米投資ファンドと対立している問題で、交渉期限となった30日、米ニューヨークでの両者の話し合いが決裂。アルゼンチンはテクニカル・デフォルトに陥った。
8・1	アルゼンチン	米連邦地方裁判所の判事はニューヨークで公聴会を開き、アルゼンチン政府に対し米投資ファンドとの交渉を継続するよう求めた。
8・7	アルゼンチン	国際司法裁判所(ICJ)は、アルゼンチン政府が同国の債務返済問題に関する米裁判所の判断を巡り、米国を訴えたと発表した。米国が応じない限り裁判は開かれない。
8・12	コロンビア	コロンビアに世界のコーヒー大手が相次いで進出していると報じられた。7月中旬にはボゴタ市にスターバックスが第1号店を開き、スイスのネスプレッソも秋に参入する。
8・14	ブラジル	10月の大統領選挙に立候補していた左派・ブラジル社会党(PSB)の党首エドゥアルド・カンポス(Eduardo Campos)氏が、搭乗していた小型飛行機の墜落事故で死亡した。
8・22	アルゼンチン	世界貿易機関(WTO)の紛争処理小委員会は、アルゼンチンが外国製の自動車や電気製品などの輸入を制限している問題について、WTO協定違反と判断し、制限を原則撤廃するよう勧告した。
8・22	ブラジル	シンガポール政府投資公社(GIC)が、サンパウロ証券取引所上場のブラジルの教育関連企業アブリル・エドゥカサン(Edueca)の株式を取得した。
8・24	ブラジル	ブラジル南部パラナ州の刑務所で服役囚600人以上が暴動をおこし、看守2人と複数の服役囚を人質に立てこもった。犯人側は25日に投降した。
8・26	アルゼンチン	アルゼンチン政府は、米バンク・オブ・ニューヨーク・メロン(BONY)の同国での営業許可を取り消すと発表した。同国は6月に国債の利払い原資をBONYの口座に振り込んだが、米裁判所が利払いが「違法」と判断したためにBONYは国債保有者への利払いに応じていなかった。
8・28	メキシコ	韓国現代自動車傘下の起亜自動車が、年産能力30万台の完成車工場を新設する。グループにとってメキシコ初の工場で、2016年操業予定。投資総額は10億ドル。

8・29	ブラジル	ブラジル地理統計院(IBGE)が発表した4～6月の国内総生産が前期比0.6%減となった。マイナス成長は2四半期連続で、ブラジル経済が景気後退局面に入ったと報じられた。
9・1	中南米 パナマ	拡張工事が進む中米パナマ運河を通る大型船舶を受け入れるため、米国や中南米で港湾設備を増強する動きが相次いでいることが報じられた。アジアから届く荷物の積み下ろしなどの需要を取り込むのが狙い。
9・9	ニカラグア	政府は、太平洋とカリブ海、大西洋を結ぶ運河の建設を12月から始めると発表した。工事は中国系の香港ニカラグア運河開発投資有限公司(HKND社)が行う。2019年の完成予定。
9・11	アルゼンチン	アルゼンチン議会は、同国が国債の利払いを続けられるように、準拠する法律を米国から自国に移せる法案を可決した。
10・1	アルゼンチン	中央銀行のファブレガ(Juan Carlos Fábrega)総裁が辞任した。同国の政策当局内で「穏健派」と知られる同氏の辞任で政府の民間企業への介入が強まるといった懸念が広がり、売りが膨らみ、同国の主要株価指数であるメルバルが約8%下落した。
10・2	アルゼンチン ブラジル	アルゼンチンに拠点を持つ鉄鋼大手のテルニウムが、ブラジル鉄鋼大手ウジミナスの株式を買い増すと発表した。テルニウムグループの持ち株比率は33.8%に上昇し、ウジミナスの経営方針を巡り対立している新日鉄住金グループの比率を上回る。
10・5	ブラジル	大統領選の投開票が行われた。現職ルセフ大統領がトップであったが当選に必要な過半数を獲得できず、最大野党・社会民主党のアエシオ・ネベス(Aécio Neves)上院議員との決選投票が26日に行われることが決まった。
10・6	ハイチ	ジャンクロード・デュバリエ(Jean-Claude Duvalier)元大統領が首都ポルトープランスの自宅で心臓発作のため死去した。86年にフランスに亡命していたが、ハイチ地震の翌年2011年1月に帰国していた。
10・6	メキシコ	同国南部ゲレロ州で9月26日、学生ら43人が銃撃戦に巻き込まれた後に行方不明になる事件があった。地元警察が関与した疑いが浮上しており、ペニャニエト(Enrique Peña Nieto)大統領は連邦警察や軍に対し地元警察から権限を奪い、治安を回復するよう命じた。
10・12	ボリビア	大統領選が行われ、左派の社会主義運動党(MAS)党首で現職のエボ・モラレス(Evo Morales)大統領が約6割の得票率で3選を決めた。任期は5年。好調な経済成長と貧困層の根強い支持に支えられた。
10・13	エルサルバドル	午後9時50分ごろ、マグニチュード7.3の強い地震があった。震源はエルサルバドル東部の南の沖合とみられる。ホンジュラス、グアテマラ、ニカラグア、メキシコなどの広い地域で揺れが記録された。
10・16	ベネズエラ	国連総会は、安全保障理事会の10非常任理事国のうち年末に任期切れとなる5カ国の改選を行った。中南米枠からはベネズエラが選ばれた。

10・20	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国出身で、米国のファッションデザイナーのオスカー・デラレンタ(Oscar de la Renta)氏が米コネティカット州の自宅で死去した。
10・26	ブラジル	大統領選の決選投票が行われ、与党・労働党の現職ジルマ・ルセフ大統領が大接戦の末に再選を決めた。任期は4年。
11・1	ブラジル	10月26日の大統領選をめぐり、サンパウロでルセフ大統領の再選に抗議するデモがあった。ソーシャルメディアでの呼びかけがきっかけとなって2500人が参加し、票の数え直しなどを訴えた。
11・1	ブラジル	外国為替市場で通貨レアルが持ち直しの動きを見せている。ルセフ大統領の再選を受けて大幅に下落していたが、29日に市場予想に反しブラジル中央銀行が政策金利の引き上げを発表したことでレアルを買い戻す投資家が増えた。
11・5	メキシコ	中国国有の鉄道建設会社、中国鉄建は、メキシコ政府から同国初となる高速鉄道事業を受注したと発表した。総事業費は約44億ドルで2017年の開業を目指す。国有車両メーカーの中国南車集団も参加し、鉄道建設から車両製造までを一貫して請け負う。
11・7	メキシコ	米携帯業界2位のAT&Tは、メキシコの携帯3位のイウサセルを買収すると発表した。買収額(負債含む)は25億ドル。
11・7	メキシコ	中国国営中央テレビは、国有鉄道建設大手の中国鉄建がメキシコ政府から請け負う予定だった高速鉄道プロジェクトの受注が白紙になったと報じた。入札に参加したのが中国企業だけだったことから、ペニャニエト大統領が決定を取り消したという。
11・13	メキシコ	中国の習近平国家主席は、訪中しているペニャニエト大統領と会談し、両国の共同出資で12億ドルの投資基金を立ち上げることで合意した。主にメキシコの道路や鉄道などのインフラ整備に投じる計画。
11・21	アルゼンチン キューバ	アルゼンチンの故ホルヘ・ビデラ(Jorge Rafael Videla)元大統領と、フィデル・カストロ前国家評議会議長が国際政治の舞台裏で協力していたことが、アルゼンチン外務省が公開した機密文書で明らかになった。
11・22	メキシコ	自動車生産拠点としてメキシコの存在感が増していると報じられた。1～10月の生産台数は過去最高を記録。通年でブラジルを上回り12年ぶりに中南米で最大となす見通し。
11・26	ブラジル メキシコ	ネスレが、ペットケア事業で新興国へも攻勢を強めていると報じられた。すでにブラジルで高級ペットフードを発売。メキシコでは、中部に工場を新設する。
11・30	ウルグアイ	ムヒカ大統領の任期満了に伴う大統領選の決選投票があり、与党の左派・拡大戦線(FA)のタバレ・バスケス(Tabaré Vázquez)前大統領が中道左派・国民党のルイス・ラカジェ・ポウ(Luis Lacalle Pou)下院議員を破り当選する見通しとなった。
12・1	ペルー	地球温暖化の対策を話し合う第20回国連気候変動枠組み条約締約会議(COP20)がリマで開幕した。

12・3	メキシコ	メキシコ政府は、高速鉄道プロジェクトの受注取り消しを巡り、中国国有鉄道建設大手の中国鉄建に1600万ドルの補償金を支払う方向で同社と詰めていることが分かった。
12・6	メキシコ	南部ゲレロ州で9月に学生43人が行方不明になった事件で、学生とみられる遺体を調べていたアルゼンチンの専門家が、学生1人のものと特定できたと発表した。
12・8	キューバ ウルグアイ	米国防総省は、グアンタナモ米海軍基地のテロ容疑者収容施設に収監されていた6人をウルグアイに移送したと発表した。1回の移送人数としてはこれまでで最多という。
12・9	コロンビア ペルー	ケリー米務長官がCOP20が開かれているペルーとコロンビアを訪問することが発表された。COP20で米国の取り組みについて演説するほか、各国の大統領らと会談する。
12・11	ブラジル	ブラジル検察当局が、国営石油会社ペトロブラスと取引先の建設会社6社の基幹部ら計35人を汚職の罪で起訴したと発表した。
12・12	ブラジル	ペトロブラスは、2014年7～9月期の決算発表を延期すると発表した。延期は11月に続いて2度目。
12・14	ハイチ	ラモット(Laurent Lamothe)首相が辞意を表明した。他の閣僚数名も同時に辞任するとしている。2011年から延期されている国会議員選がまだ実施されていないことに対する抗議デモが数週間前から激化していた。
12・17	キューバ	キューバと米国が国交正常化交渉を開始した。オバマ(Barack Obama)大統領とラウル・カストロ国家評議会議長がそれぞれ発表した。ローマ法王庁は、法王フランシスコが仲介役を果たしたことを発表。
12・19	アルゼンチン	オランウータンにも人間と同じ基本的な権利が認められるとして、裁判所がブエノスアイレスの動物園にいる28歳の「サンドラ」を解放するよう命じる判決を出した。
12・22	ニカラグア	太平洋側のブリトで、太平洋とカリブ海を結ぶ新たな運河の建設開始式典が開かれた。総工費500億ドルの大型事業は中国系企業HKNDが受注している。25万トン級の船を通す計画。2020年の完成を目指している。
12・23	メキシコ	ネスレが、アイスクリーム事業「エラドス・ネスレ」をグルポ・エルデスに10億ペソで売却する。不振事業からの撤退を加速している一貫。一方で成長率が高いペットフードやカプセル式コーヒーなどには積極的に投資している。

参考資料

- (1)聞蔵IIビジュアル
- (2)日経テレコン21
- (3)読売新聞(2014年)